

アカデミック・ライティング

担当教員 山口 真也・芳山紀子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は、3年次以降の専門演習における学びの基本的な日本語表現（ライティング）のトレーニングを行う。また表計算ソフトの活用法に習熟することも目指す。

【授業の展開計画】

○は芳山先生担当、●は山口の担当

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・登録確認・履修上の注意点
2	●アカデミックワードと日常語／仮名遣い・送り仮名／句読点
3	●漢字の使い分け／見やすい表記
4	●曖昧な文／分かりやすい語順／長い文を分ける／文のねじれ
5	●接続表現の使い方／結論を先に述べる／事実か意見か／
6	●データの解釈／レポートの構成／注の書き方／参考文献の書き方・引用の仕方
7	○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法① 高度な関数を自在に操る
8	○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法② 3-D集計／統合機能
9	○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法③ 自動集計機能／フィルタオプションの設定
10	○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法④ ピボットテーブル作成と活用
11	○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法⑤ マクロ機能
12	●課題レポートの作成①（課題設定・書く順序）
13	●課題レポートの作成②（先行研究について）
14	●課題レポートの作成③（調査結果と考察）
15	●課題レポートの作成④（結論と今後の課題）
16	●課題レポートの作成⑤（そして「はじめに」へ）

【履修上の注意事項】

- ①無断欠席をしないこと。
- ②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。
- ③TA、SAやライティングセンターを活用してライティングスキルを高めること。

【評価方法】

- ①出席を重視する。（ライティングパートでは4回以上 エクセルパートでは2回以上欠席すると不可）
- ②課題レポートの内容を評価する。（エクセルパートでは別にレポート・ミニテストがある）
- ③欠席が1／3を超える者には単位は認定しない。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

アカデミック・ライティング

担当教員 田場 裕規・芳山紀子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講は、3年次以降の専門演習における学びの基本的な日本語表現（ライティング）のトレーニングを行う。また表計算ソフトの活用法に習熟することも目指す。

【授業の展開計画】

○は芳山先生担当、●は田場の担当

- 1 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法① 高度な関数を自在に操る
- 2 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法② 3-D集計／統合機能
- 3 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法③ 自動集計機能／フィルタオプションの設定
- 4 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法④ ピボットテーブル作成と活用
- 5 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法⑤ マクロ機能
- 6 ●アカデミックワードと日常語／仮名遣い・送り仮名／句読点
- 7 ●漢字の使い分け／見やすい表記
- 8 ●曖昧な文／分かりやすい語順／長い文を分ける／文のねじれ
- 9 ●接続表現の使い方／結論を先に述べる／事実か意見か／
- 10 ●データの解釈／レポートの構成／注の書き方／参考文献の書き方・引用の仕方
- 11 ●課題レポートの作成①（課題設定・書く順序）
- 12 ●課題レポートの作成②（先行研究について）
- 13 ●課題レポートの作成③（調査結果と考察）
- 14 ●課題レポートの作成④（結論と今後の課題）
- 15 ●課題レポートの作成⑤（そして「はじめに」へ）

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③TA、SAやライティングセンターを活用してライティングスキルを高めること。

【評価方法】

①出席を重視する。②課題レポートの内容を評価する。③欠席が1／3を超える者に単位は認定しない。

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する。

アカデミック・ライティング

担当教員 西岡 敏・芳山紀子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は、3年次以降の専門演習における学びの基本的な日本語表現（ライティング）のトレーニングを行う。また表計算ソフトの活用法に習熟することも目指す。

【授業の展開計画】

○は芳山先生担当、●は西岡の担当

- 1 オリエンテーション
- 2 ●アカデミックワードと日常語／仮名遣い・送り仮名／句読点
- 3 ●漢字の使い分け／見やすい表記
- 4 ●曖昧な文／分かりやすい語順／長い文を分ける／文のねじれ
- 5 ●接続表現の使い方／結論を先に述べる／事実か意見か／
- 6 ●データの解釈／レポートの構成／注の書き方／参考文献の書き方・引用の仕方
- 7 ●課題レポートの作成①（課題設定・書く順序）
- 8 ●課題レポートの作成②（先行研究について）
- 9 ●課題レポートの作成③（調査結果と考察）
- 10 ●課題レポートの作成④（結論と今後の課題）
- 11 ●課題レポートの作成⑤（そして「はじめに」へ）
- 12 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法① 高度な関数を自在に操る
- 13 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法② 3-D集計／統合機能
- 14 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法③ 自動集計機能／フィルタオプションの設定
- 15 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法④ ピボットテーブル作成と活用
- 16 ○アカデミックスキルとしての表計算ソフトの活用法⑤ マクロ機能

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③TA、SAやライティングセンターを活用してライティングスキルを高めること。

【評価方法】

①出席を重視する。②課題レポートの内容を評価する。③欠席が1／3を超える者に単位は認定しない。

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する。

アジア太平洋文化論

担当教員 兼本 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では日本を取り巻くアジア諸国の文化、特に「ことば」を中心に概観する。アジアの諸言語を文字（表記法）、語彙、語順、発音（音韻）や表現をキーワードに学習していく。学習の過程でアジアの言語が日本語に与えた影響、日本語が受けた影響など相互に関係し合う言語交流について考える。環太平洋諸国、アジア諸国のことばを比べ、各国のことばの相似および差異を知ることによってアジア文化、特に日本の文化の特徴を理解する。

【授業の展開計画】

1. 講義の概要の説明および到達目標と評価方法について。
2. アジアの言語の紹介（アジアとは？ 地理を中心に考える）
3. アジアの言語の表記法（文字）について
4. 言語分類と言語の比較と対照について
5. アジアの歴史と言語 日本語の特徴
6. アジアの歴史と言語 沖縄のことば
7. アジアの歴史と言語 中国語の特徴
8. アジアの歴史と言語 韓国語の特徴
9. アジアの言語について（総復習と中間テスト）
10. 環太平洋のことばの紹介（地理を中心に）
11. 環太平洋の言語について（音韻と語順を中心に）
12. 環太平洋の言語について（音韻と語順を中心に）
13. 環太平洋の言語について
14. 総復習と質疑
15. 学期末試験

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席をしないこと）
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えない。

【評価方法】

学則に従い1/3の欠席は評価対象外となる。

中間テスト 40%

学期末試験 40%

レポート 20% （レポートのテーマは講義内で提示する）

【テキスト】

特に指定しないが、高校までに使用した英語および国語（日本語）の文法書を利用する。

【参考文献】

『図解アジア文字入門』（河出書房新書）『多言語多文化学習のすすめ』（朝日出版社）
その他、講義で適宜紹介する。

演習 I

担当教員 大野 隆之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、演習のすすめ方、班編成、テキストの決定。
- 2、問題のたて方。
- 3、資料の蒐集法。
- 4、模擬演習。
- 5、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習 I

担当教員 大城 朋子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

言語・コミュニケーションを人間・文化・社会との関りにおいて考え、そこに存在する課題に取り組んでいく。属性とことば、言語行動、言語生活、言語接触、言語意識、言語習得等の社会言語学領域の文献や日本語教育に関する文献を徹底的に読み込んでいく。その際に担当者はレジメを作成し ppを用いて発表していく。

【授業の展開計画】

1. ゼミ運営の方針説明・レジメの作り方
2. 学術論文を読み込む
3. テーマと研究方法の選択決定・アウトライン作成
4. 調査・資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査

【履修上の注意事項】

常に問題意識を持ち、積極的に資料を調べたり専門家に直接尋ねたりして自主的に研究に取り組み、問題解決に臨んでほしい。生きたことばの面白さ、そして研究の面白さを体験してほしい。

【評価方法】

共同研究への取り組みの姿勢、課題発表、討論への参加度、論文作成等を総合的に評価する。

【テキスト】

ダニエル・ロング他編『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社
真田信治他著『社会言語学』おうふう社 他

【参考文献】

演習 I

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。

情報社会・生涯学習社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。

なお3年生は、次年度の卒業論文作成のために、各自の興味・関心のある分野やテーマの基礎知識の整理・体系化に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：論文作成作業について
2	ゼミ論の執筆①：執筆スケジュール
3	ゼミ論の執筆②：テーマ設定・研究方法
4	ゼミ論の執筆③：資料・情報の収集方法
5	ゼミ論の執筆④：論文の構成方法
6	ゼミ論の執筆⑤：執筆の書き方
7	ゼミ論の執筆⑥：内容発表・質疑応答・討議
8	テーマと方法論の発表／個別指導①
9	テーマと方法論の発表／個別指導②
10	テーマと方法論の発表／個別指導③
11	テーマと方法論の発表／個別指導④
12	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導①
13	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導②
14	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導③
15	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導④
16	まとめ

【履修上の注意事項】

各自のテーマを明確に設定し、論文作成のための計画を立案すること。

【評価方法】

出席状況と各自の発表内容、討議への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

各自が設定したテーマに基づき、関連資料・情報を調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じて調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、松尾芭蕉『おくの細道』を扱う。芭蕉自筆本等の影印の翻字演習を前半に行い、後半はレポーターが【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。最終的に注釈書（ゼミ論集）としてまとめる。

【授業の展開計画】

第1回 ガイダンス

第2回～第4回 翻字演習

第5回～第14回 レポート発表

- ・必ず【通釈】【語釈】【考説】の項をもって発表すること。
- ・『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、などの関連する事項を調べること。
- ・調査結果に基づく通釈、考説であること。

第15回～第16回 注釈書（ゼミ論集）の編集作業。

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③レポーター以外も下調べを行ってから参加すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは購入しなくてもよい。

【参考文献】

授業内で指示する。

『字典かな 新装版』（笠間書院）¥780

演習 I

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文に関連するそれぞれの研究テーマを発表してもらおう。発表の内容は琉球文学を対象とする。3年次生はそれらの発表を通して、調査及び発表資料作成の方法を学ぶ。

琉球文学には、琉球士族社会で生まれたオモロ・琉歌・古典芸能・記録された言語文化などと、庶民社会で伝承された歌謡・説話・民俗芸能などに大別することもできるが、その両者は相互に影響関係にあるので、そのことを考慮して調査・研究を進めること。特に、琉歌は本土の歌謡や和歌の影響を受けている作品が多く、説話もまた本土との繋がりが深いので、そのことを考慮して、論を組み立てるようにするのが望ましい。

【授業の展開計画】

第1回 発表についての説明

1. 各発表者の発表日の確定
2. 発表資料等作成に当たって、指導を受けることを希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
3. 発表資料はパソコンで作成すること。
4. 発表の後には、一人一人が必ず質問や意見などを述べること。

第2回～第15回 4年次生全員が各自のテーマで発表し、質疑応答を行う。

第16回 全体の総括と試験

【履修上の注意事項】

1. 発表者が無断欠席をした場合は、原則として単位を認めない。
2. 欠席が3分の1を超える学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

なし

【参考文献】

『沖縄古語大辞典』 『沖縄民俗辞典』 『琉歌全集』 『おもろさうし』 『南島歌謡大成』

演習 I

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習 I

担当教員 山口 真也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報ソフトウェア制作」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。後期から始まる個人研究発表のテーマ設定を各自で行うことを最終目標とします。

【授業の展開計画】

<到達目標> ①多様なメディアの文献収集能力や社会調査法の基礎を身につける。グループ討論に必要な、論理的な思考方法・発表スキルを修得する。③4年生によるテーマ紹介を通して、本ゼミナールのテーマを理解し、自身の研究テーマ、仮説、検証方法を設定できる。④個人研究テーマ発表を通して、基本的な発表スキル(話し方、資料の活用方法、質疑応答の方法)を修得する。⑤ゼミ単位での課外活動やキャリアガイダンスを通して、他者との協働のあり方、グループ内での自己の役割・適性を考え、将来の職業選択に役立てることが出来る。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(1):履修上の注意、授業の内容紹介、論文集の配布、発表日程の決定
2	オリエンテーション(2):個別面談(2年間の目標設定・進路相談)
3	オリエンテーション(3):就職活動と研究活動の両立・就職ガイダンス
4	卒業論文中間報告(1):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
5	卒業論文中間報告(2):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
6	卒業論文報告(1):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション
7	卒業論文報告(2):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション
8	卒業論文報告(3):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション
9	個人研究テーマの決定(1):先行研究の調査方法(図書・雑誌記事編)、チューター制度の説明
10	個人研究テーマの決定(2):先行研究の調査方法(新聞記事・辞書事典・各種データ編)
11	個人研究テーマの決定(3):学術研究の方法(問題意識・仮説・検証)、研究計画書の作成方法
12	個人研究テーマの決定(4):社会調査法(アンケート・観察・インタビュー調査方法)
13	個人研究テーマ発表(1)
14	個人研究テーマ発表(2)
15	個人研究テーマ発表(3)
16	授業のまとめと自己評価(到達度チェック、レポート提出)

【履修上の注意事項】

・ソフトウェアの制作を行う学生は「データベース論」「マルチメディア論」の単位をすでに取得していることが望ましい。また、「文化情報学基礎演習(情報学クラス)」「地域データベース論」「地域データベース演習」を3年生で受講することを履修の条件とする。(「マルチメディア論」は3年生前期でも可)
 ・図書館情報学研究を行う学生は、①図書館司書資格課程履修中、②3年次後期より始まる学校図書館司書教諭課程履修予定であることを条件とする。

【評価方法】

定期テスト・・・0点

レポート・・・10点 (自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート提出)

平常点・・・90点(討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、フィードバックシートへの記入などを評価)

※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習 I

担当教員 西岡 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。具体的には、琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。

フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いてフィールドワーク（野外調査）を行ないます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。

音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事でしょう。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。琉球語の再活性化という問題についても考えていきます。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。また、「琉球方言学特殊講義 I II」の受講を推奨します。

年に数回、琉球語調査および琉球語表現実践のフィールドワークを行いますので、積極的に参加してください。また、琉球語スピーチコンテストなど琉球語に関わる行事にも積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習 I

担当教員 兼本 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

受講生は1～2年で履修してきた専門科目および選択科目を総合的に整理し日本文化について各自で確認してもらおう。つまり、日本文化学科では必須である卒業論文のテーマ設定をを念頭に置き、クラスに参加してもらおう。各自が興味を持っているテーマを発表し合い、質問し合い、必要な知識、欠落している知識を確認し補っていく。また、論文、報告書、感想文などの文章の特徴を理解してもらい、その形式について再度学ぶ。

【授業の展開計画】

ゼミ形式で行うので、授業の展開は発表とディスカッションとなる。

4月は、論文、報告書、感想文などの特徴と形式の確認。

5月は、各自のテーマについて発表する。発表後に質疑応答。

6月は、各自のテーマについて発表する。発表後に質疑応答。

7月は、各自の課題（欠落していた知識や論文のテーマと章立て）を提出。

【履修上の注意事項】

ゼミ論のテーマは自己責任で選ぶが、卒論へ向けて現段階で自分は

1. 何が分かっている、何が分かっていない、を把握してもらいたい。
 2. 前期ではクラスメートのテーマに耳を傾け、自分の習得した知識の増大に努めてほしい。
- 学期末に提出してもらおうゼミ報告書に1 & 2について書いてもらう。

【評価方法】

学期末に提出してもらおう「ゼミ報告書」を基に評価する。

評価は、次の3点を基準に評価する。

- 1) 文章の構成（テーマの明示、参考文献の要約、展開と考察）
- 2) 論理性
- 3) 先行研究（資料の収集量と質）

【テキスト】

各自のテーマに応じて自己決定し報告してください。適宜紹介します。

【参考文献】

高橋順一 他 (1998) 『人間科学 研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版
小笠原喜康 『インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術』 講談社現代新書
その他、適宜に紹介する。

演習 I

担当教員 葛綿 正一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

登録予定人数は10名。中世近世文学論または映像文化論に関してテーマの明確な学生のみ受け入れる。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】

演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表
- 3 研究発表
- 4 研究発表
- 5 研究発表
- 6 研究発表
- 7 研究発表
- 8 研究発表
- 9 研究発表
- 10 研究発表
- 11 研究発表
- 12 研究発表
- 13 研究発表
- 14 ゼミ論集等の作成
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

演習Ⅱ

担当教員 兼本 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で提出したゼミ報告書について各自の意見を話し合い、ゼミ論のテーマを決定する。後期は「ゼミ論」の記述が目標となる。ゼミ論完成に向けて必要な知識の確認を行う。このゼミ論は卒論に繋がるよう書いてもらう。

【授業の展開計画】

授業は次のように展開する。

- 10月 ゼミ形式で、前期に提出した「ゼミ論」について話し合う。
- 11月 各自でゼミ論のテーマを設定し、その構想を発表してもらう。
- 12月 執筆中のゼミ論について質疑応答を繰り返す。
- 1月 ゼミ論の構成と最終提出

【履修上の注意事項】

後期は学校行事や個人的なイベントが多く、アツという間に過ぎてしまいます。11月には推薦入試、大学祭があり、12月はクリスマスや忘年会で学生の本業を忘れがちです。欠席は減点としますので体調管理はしっかりと！

【評価方法】

ゼミ論の仕上がりで評価します。評価項目は次の通りです。
1) 構成（章立て、展開） 2) 参考資料 3) 引用文の形式
内容については後期の授業で質疑応答形式で確認します。

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介します。

演習Ⅱ

担当教員 大城 朋子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

グループで共同研究を行う。テーマの決定、資料収集、調査計画、実際の調査、分析・考察、そして発表等を経て論文にまとめる。このような一連の研究のプロセスを体験することにより、論理的な思考態度の基本を身につけ、卒業論文作成に向けて基礎的な力を養っていく。

【授業の展開計画】

1. 調査・資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査
2. 調査結果の検討→調査の発表及び討議
3. 報告書作成・印刷

【履修上の注意事項】

自主的に研究に取り組み、生きたことばの面白さ、そして研究の面白さを体験してほしい。

【評価方法】

共同研究への取り組みの姿勢、課題発表、討論への参加度、論文作成等を総合的に評価する。

【テキスト】

真田信治他著『社会言語学の展望』くろしお出版
他資料も適宜使用する。また、各自で選択する論文も使用する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文に関連するそれぞれの研究テーマを発表してもらおう。発表の内容は琉球文学を対象とする。3年次生はそれらの発表を通して、調査及び発表資料作成の方法を学ぶ。

琉球文学には、琉球士族社会で育まれたオモロ・琉歌・古典芸能・記録された言語文化などと、庶民社会で伝承された歌謡・説話・民俗芸能などに大別することができるが、その両者は相互に影響関係にあるので、そのことを考慮して調査・研究を進めること。特に、琉歌は本土の歌謡や和歌の影響を受けている作品が多く、説話・芸能もまた本土との繋がりが深いので、そのことを勘案して、論を組み立てるようにするのが望ましい。

【授業の展開計画】

第1回 発表方法についての説明

1. 各発表者の発表日の確定
2. 発表資料作成に当たって、指導を受けることを希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
3. 発表資料はパソコンで作成すること。
4. 発表の後には、1人1人が必ず質問や意見を述べること。

第2回～15回 4年次生全員が各自のテーマに基づいて発表し、質疑応答を行う。

第16回 全体の総括と試験

【履修上の注意事項】

1. 発表者が欠席した場合、原則として単位は認めない。
2. 欠席が3分の1を超えた学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

なし

【参考文献】

『沖縄古語辞典』『沖縄民俗辞典』『琉歌全集』『おもろさうし』『南島大成』

演習Ⅱ

担当教員 西岡 敏

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。具体的には、琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。

フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いてフィールドワーク（野外調査）を行ないます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。

音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事でしょう。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。琉球語の再活性化という問題についても考えていきます。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。また、「琉球方言学特殊講義ⅠⅡ」の受講を推奨します。

年に数回、琉球語調査および琉球語表現実践のフィールドワークを行いますので、積極的に参加してください。また、琉球語スピーチコンテストなど琉球語に関わる行事にも積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅱ

担当教員 山口 真也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行います。その過程で、卒業研究の基礎となる研究レポートを作成し、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につけることを目的とします。また、キャリアに関する情報提供・交換も行い、各自が研究テーマと関わらせながら、進路研究を進めていきます。

【授業の展開計画】

<到達目標>①多数の先行研究に触れることで、論理的な文章構成力を身に付ける(学術論文の文体をマスターする)。②社会調査方法(アンケート・観察・インタビュー方法)を理解し、仮説を証明する上で適切な方法を選択するとともに、実施した調査の結果を客観的な視点で分析できる。③研究発表の準備・運営を通して、説明する、質問する、意見を述べる、などのプレゼンテーションの力を高めるとともに、スケジュールマネジメントなどの自己管理能力を伸ばし、就職活動等の実生活に役立てることができる。

週	授 業 の 内 容
1	後期の目標設定・夏休みの学習状況の報告・発表日程の決定
2	レジュメの作成方法・引用の方法・参考文献の書き方・司会進行方法
3	グループ学習① 基本概念の整理方法(レジュメの見出しの作成)・発表日程の決定
4	グループ学習② 調査方法の決定・内容の検討(仮説を証明するためにふさわしい調査方法とは?)
5	グループ学習③ 観察調査の分析方法・グラフによる表現方法
6	個人研究発表① 卒業研究題目仮登録
7	個人研究発表②
8	個人研究発表③ 就職ガイダンス①(自己分析の方法)
9	個人研究発表④
10	個人研究発表⑤ 就職ガイダンス②(エントリーシートの書き方)
11	個人研究発表⑥
12	個人研究発表⑦ 就職ガイダンス③(エントリーシートの書き方)
13	個人研究発表⑧
14	個人研究発表⑨ 就職ガイダンス④(エントリーシートの送り方)
15	個人研究発表⑩
16	授業のまとめ(到達度のチェック・レポート提出)

【履修上の注意事項】

- ・履修条件等は演習Iと同じ。
- ・ゼミ生が10名を超えるの場合は、12月末、または2月～3月に合宿形式で補講を行うことがあります。
- ・2月末～3月上旬に4年生による卒業研究発表会があります。

【評価方法】

定期テスト・・・0点

レポート・・・10点 (自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート)

平常点・・・90点 (研究発表の到達度、討議への参加、傾聴能力、フィードバックシートへの記入などを評価)

※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習Ⅱ

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。

情報社会・生涯学習社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。

なお3年生は、次年度の卒論作成のために、各自の興味・関心のある分野やテーマの基礎知識の整理・体系化に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	ゼミ論：経過報告／個別指導①
3	ゼミ論：経過報告／個別指導②
4	ゼミ論：経過報告／個別指導③
5	ゼミ論：書き方
6	ゼミ論執筆：個別指導①
7	ゼミ論執筆：個別指導②
8	ゼミ論執筆：個別指導③
9	ゼミ論執筆：個別指導④
10	ゼミ論発表／質疑応答①
11	ゼミ論発表／質疑応答②
12	ゼミ論発表／質疑応答③
13	ゼミ論発表／質疑応答④
14	ゼミ論発表／質疑応答⑤
15	ゼミ論発表／質疑応答⑥
16	ゼミ論提出

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、あらゆる情報手段を活用して必要な資料・情報源を収集し、テーマに関する基礎知識を整理・体系化すること。

【評価方法】

出席状況と各自の発表内容、討議への参加姿勢を含めて総合的に評価する。

【テキスト】

各自が設定したテーマに基づき、関連資料・情報を調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じて、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 大野 隆之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、前期演習の反省。
- 2、後期の問題設定。
- 3、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

- ①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅱ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。
 毎回、小レポートの提出を義務づける。
 厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅲ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	演習の進め方	17	発表する (8)
2	調べる (1)	18	発表する (9)
3	調べる (2)	19	発表する (10)
4	調べる (3)	20	発表する (11)
5	調べる (4)	21	発表する (12)
6	分析する (1)	22	発表する (13)
7	分析する (2)	23	発表する (14)
8	分析する (3)	24	発表する (15)
9	分析する (4)	25	ゼミ論集の制作 (1)
10	発表する (1)	26	ゼミ論集の制作 (2)
11	発表する (2)	27	ゼミ論集の制作 (3)
12	発表する (3)	28	ゼミ論集の制作 (4)
13	発表する (4)	29	まとめ (1)
14	発表する (5)	30	まとめ (2)
15	発表する (6)	31	
16	発表する (7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅲ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅲ

担当教員 大城 朋子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語学や社会言語学の関係資料の読み込み、比較分析、考察、そして議論を行い卒業論文の執筆のための視点を養っていきます。

【授業の展開計画】

1. ゼミ運営の方針説明・レジメの作り方
2. 学術論文を読み込む
3. テーマと研究方法の選択決定・アウトライン作成
4. 調査・資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査

【履修上の注意事項】

積極的に課題に取り組み、研究の奥深さを体験してほしい。

【評価方法】

取り組みに対する姿勢、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】

宇佐美まゆみ『言葉は社会を変えられる』明石書店
他論文や資料を適宜使用する。

【参考文献】

テーマにそって各自で選択した論文

演習Ⅲ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

『琉歌百控』をテキストとして、発表を行う。発表者は琉歌の解釈をしたうえで、その問題点を発見しテーマを定めて発表資料を作成する。

琉歌は本土の歌謡や和歌の影響を受けている作品が多いので、本土の和歌や歌謡と比較することによって、琉歌の特質を明らかにするようにつとめること。

【授業の展開計画】

第1回 発表方法についての説明

1. 発表日の確定
2. 発表レジュメには、以下のことを掲載する。
 - ①琉歌百控（新日本古典文学大系）の原歌・解釈・発表者の訳
 - ②語釈（言葉の文法的な解釈）
 - ③発表テーマを考察するために必要な琉歌・和歌などの類歌その際『琉歌全集』『琉歌大成』などを資料とし、必要に応じて作者・時代背景などにも触れること。
3. 発表資料は、パソコンで作成すること。
4. 発表の後には、全員が質問・意見などを述べて、発表者と討論する。

第2回～第15回 各発表者は、『琉歌百控』の琉歌の番号順に発表し、全員で質疑応答を行う。

第16回 全体のまとめと試験

【履修上の注意事項】

1. 発表者が無断欠席した場合は、原則として単位を認めない。
2. 3分の1以上を欠席した学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表資料・発表内容・質疑の総合評価。

【テキスト】

なし

【参考文献】

『沖縄古語大辞典』『琉歌全集』『琉歌大成』『おもろさうし』『南島歌謡大成』

演習Ⅲ

担当教員 西岡 敏

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。具体的には、琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。

フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いてフィールドワーク（野外調査）を行ないます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。

音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事でしょう。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。琉球語の再活性化という問題についても考えていきます。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。また、「琉球方言学特殊講義ⅠⅡ」の受講を推奨します。

年に数回、琉球語調査および琉球語表現実践のフィールドワークを行いますので、積極的に参加してください。また、琉球語スピーチコンテストなど琉球語に関わる行事にも積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅲ

担当教員 山口 真也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報ソフトウェア制作」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。4年生は、新ゼミ生(3年生)のチューターとして、各自の卒論研究の中間報告を行うとともに、3年生によるグループ討論、研究テーマ決定、文献調査、テーマ発表において随時アドバイスを行うことで、卒業研究に必要な知識、技能を再確認するとともに、プレゼンテーションスキルと協働意識を身につけることを目的とします。

【授業の展開計画】

各回の内容は演習Ⅰと同じです。

【履修上の注意事項】

演習Ⅰと同じ。

【評価方法】

演習Ⅰと同じ。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習Ⅲ

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、松尾芭蕉『おくの細道』を扱う。芭蕉自筆本等の影印の翻字演習を前半に行い、後半はレポーターが【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。最終的に注釈書（ゼミ論集）としてまとめる。”

【授業の展開計画】

第1回 ガイダンス

第2回～第4回 翻字演習

第5回～第14回 レポート発表

- ・必ず【通釈】【語釈】【考説】の項をもって発表すること。

- ・『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、などの関連する事項を調べること

- ・調査結果に基づく通釈、考説であること。

第15回～第16回 注釈書（ゼミ論集）の編集作業。”

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③レポーター以外も下調べを行ってから参加すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは購入しなくてもよい。

【参考文献】

授業内で指示する。

『字典かな 新装版』（笠間書院）¥780”

演習Ⅲ

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。

生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。

4年生は、3年次での文献調査でまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらなる文献調査やアンケート調査の実施・集計結果の検討などにより考察を深め、卒業論文としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：ゼミ論から卒論へ
2	卒論：執筆スケジュールの組み方
3	卒論：テーマ設定・研究方法の確定
4	卒論：資料・情報の収集方法
5	卒論：論文の構成方法について
6	卒論：書き方・内容発表・質疑応答
7	テーマと方法論の報告／個別指導①
8	テーマと方法論の報告／個別指導②
9	テーマ・方法論の発表／個別指導③
10	テーマ・方法論の発表／個別指導④
11	進捗状況、課題・問題点の報告／個別指導①
12	進捗状況、課題・問題点の報告／個別指導②
13	卒論内容の発表／個別指導①
14	卒論内容の発表／個別指導②
15	卒論内容の発表／個別指導③
16	まとめ

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成作業を着実に進めること。

【評価方法】

出席状況と卒論の発表内容、討議への参加姿勢を含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに関する資料・情報を収集して基礎知識を持ち、さらに必要に応じて図書館への調査活動もおこなう。各自の必要に応じて、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅲ

担当教員 大野 隆之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、演習のすすめ方、班編成、テキストの決定。
- 2、問題のたて方。
- 3、資料の蒐集法。
- 4、模擬演習。
- 5、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習Ⅲ

担当教員 兼本 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまで培ってきた大学生として有すべき技能を駆使してゼミ論を書いてもらう。プレゼンを行い論文の完成度を高めてもらう。

【授業の展開計画】

各自が設定したテーマに沿って、個別の対応になるが、クラス共通の授業展開は次のとおりである。

1. 各自の設定したテーマについて発表
2. 発表されたテーマに対する質疑と提案
3. 先行研究を含む資料収集の具体的な報告
4. ゼミ論の完成までの具体的レジメの提出

※ 実際に異文化接触を体験してもらう。（海外ゼミ体験を企画実行）

【履修上の注意事項】

ゼミは講義とは違い、教員が教えるのではなく、皆さんと一緒に疑問を討論していくものです。各自の進捗状況によって疑問が異なるので積極的に質疑を行うこと。教員とは講義時間外のオフィス・アワーを活用すること。

朝方になる訓練と体調管理（異文化体験と社会人としての準備）

【評価方法】

積極性、具体性、明瞭さを基に評価します。

【テキスト】

特に指定はしませんが、論文の書き方に関する書籍を購読するように。

【参考文献】

各自のテーマによって異なるので適宜アドバイスします。

演習Ⅳ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	演習の進め方	17	発表する (8)
2	調べる (1)	18	発表する (9)
3	調べる (2)	19	発表する (10)
4	調べる (3)	20	発表する (11)
5	調べる (4)	21	発表する (12)
6	分析する (1)	22	発表する (13)
7	分析する (2)	23	発表する (14)
8	分析する (3)	24	発表する (15)
9	分析する (4)	25	ゼミ論集の制作 (1)
10	発表する (1)	26	ゼミ論集の制作 (2)
11	発表する (2)	27	ゼミ論集の制作 (3)
12	発表する (3)	28	ゼミ論集の制作 (4)
13	発表する (4)	29	まとめ (1)
14	発表する (5)	30	まとめ (2)
15	発表する (6)	31	
16	発表する (7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。
 毎回、小レポートの提出を義務づける。
 厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅳ

担当教員 山口 真也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行います。4年生は、チューターとして、グループ学習時に様々なアドバイスを与え、さらに、3年生による研究発表の準備や発表当日の進行をサポートすることで、卒業研究に必要な基礎的な知識、技能を再確認するとともに、協働意識とプレゼンテーションスキル、司会進行方法、討論方法など、社会人として必要となる各種技能を習得することを目的とします。

【授業の展開計画】

各回の内容は演習Ⅱと同じです。

【履修上の注意事項】

演習Ⅱと同じ。

【評価方法】

演習Ⅱと同じ。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習Ⅳ

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】

演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表
- 3 研究発表
- 4 研究発表
- 5 研究発表
- 6 研究発表
- 7 研究発表
- 8 研究発表
- 9 研究発表
- 10 研究発表
- 11 研究発表
- 12 研究発表
- 13 研究発表
- 14 ゼミ論集等の作成
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

演習Ⅳ

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次生が『琉歌百控』をテキストとして発表を行うが、4年次生は3年次生の発表の問題点を指摘し、内容を深めるための質問を行う。

発表者は琉歌の解釈をしたうえで、その問題点を発見しテーマを定めて発表資料を作成する。琉歌は、本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、本土の和歌や歌謡と比較することによって、琉歌の特質を明らかにするようにつとめること。

【授業の展開計画】

第1回 発表方法についての説明

1. 発表日の確定
2. 発表資料作成に当たって指導を希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
3. 発表レジュメには、①琉歌百控（新日本古典文学大系）の原歌・解釈・発表者の訳、②語釈（琉歌の語彙及び文法的な解釈）、③発表テーマを考察するために必要な琉歌（類歌等）を『琉歌全集』『琉歌大成』などを資料とすること。また、必要に応じて作者・時代背景などにも触れること。
4. 発表資料はパソコンで作成すること。
5. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べて発表者と討論すること。

第2回～第15回 各発表者は『琉歌百控』の歌番号順に4種ずつ発表し、討論する。

第16回 全体のまとめと試験

【履修上の注意事項】

1. 指導を受けることを希望する発表者は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
2. 発表者が無断欠席した場合は、原則として単位を認めない。
3. 3分の1以上の欠席者は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

『琉歌百控』

【参考文献】

『沖縄古語大辞典』『琉歌全集』『琉歌大成』『おもろさうし』『南島歌謡大成』

演習Ⅳ

担当教員 西岡 敏

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。具体的には、琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。

フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いてフィールドワーク（野外調査）を行ないます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。

音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事でしょう。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。琉球語の再活性化という問題についても考えていきます。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。また、「琉球方言学特殊講義ⅠⅡ」の受講を推奨します。

年に数回、琉球語調査および琉球語表現実践のフィールドワークを行いますので、積極的に参加してください。また、琉球語スピーチコンテストなど琉球語に関わる行事にも積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅳ

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。

生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究をすすめ、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。

4年生は、3年次での文献調査でまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらなる文献調査やアンケート調査の実施・集計結果の検討などにより考察を深め、卒業論文としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	卒論：中間発表／個別指導①
3	卒論：中間発表／個別指導②
4	卒論：中間発表／個別指導③
5	卒論：中間発表／個別指導④
6	論文執筆：個別指導①
7	論文執筆：個別指導②
8	論文執筆：個別指導③
9	論文執筆：個別指導④
10	論文内容の発表・質疑応答／個別指導①
11	論文内容の発表・質疑応答／個別指導②
12	論文内容の発表・質疑応答／個別指導③
13	論文内容の発表・質疑応答／個別指導④
14	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑤
15	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑥
16	卒業論文提出

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成の後期段階を着実に進めること。

論文発表時には、レジュメを準備・配布し、口頭による丁寧な補足説明をおこなうこと。

【評価方法】

出席状況と卒論の発表内容、討議への参加姿勢を含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに関する資料・情報を収集して基礎知識を持ち、さらに必要に応じて図書館への調査活動もおこなう。各自の必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 兼本 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で作成提出したゼミ論の完成を目指します。
自己の責任で作成したゼミ論の口頭発表を行い質疑応答を通して完成度を高めます。

【授業の展開計画】

各自がゼミ論の提示をしないと授業が成り立ちません。遅くとも12月に論文を完成し発表します。
多くの場合、ゼミ論は卒業論文と同一テーマになります。形式は学科が指定する文字数、枚数を適用します。

【履修上の注意事項】

後期は、推薦入試、大学祭、年末のイベント、就職活動と本業を見失いがちです。
自分の立てた計画を遅れずに実行してください。

【評価方法】

早めの提出で添削も可能です。
最終評価は提出されたゼミ論で行います。（卒論に準じる）
構成、論証の正確さ、参考文献の有効性、文章の明瞭さ

【テキスト】

指定なし。

【参考文献】

個々のテーマによって異なりますが、必要に応じて提示します。

演習Ⅳ

担当教員 大野 隆之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、前期演習の反省。
- 2、後期の問題設定。
- 3、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 大城 朋子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語学や社会言語学の関係資料の読み込み、比較分析、考察、そして議論を行い卒業論文の執筆のための視点を養っていきます。

【授業の展開計画】

1. 調査結果に関する発表・討議
2. 学術論文の読み込み
3. 報告書作成

【履修上の注意事項】

積極的に課題に取り組み、研究の奥深さを体験し、より論理的な視点を養ってほしい。

【評価方法】

研究への取り組み、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】

各自のテーマに沿って選んだ学術論文をテキストとします。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジユメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

応用言語学

担当教員 仲間 恵子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

言語学における基本的な事項（音声、文法、語彙、文字）をふまえた上で、実際の言語においてどのような分析ができるか考える。また、具体例をとおして用例の集め方、提示の仕方について学ぶ。特に標準語と琉球語の接触においてあらわれる言語現象をとりあげる。

【授業の展開計画】

進捗状況により、内容は前後する。

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス 標準語と琉球語
2	接触言語とは
3	琉球列島における言語接触1 語彙
4	琉球列島における言語接触2 語彙（俗語）
5	琉球列島における言語接触3 文法（格・とりたて）
6	琉球列島における言語接触4 文法（動詞）
7	琉球列島における言語接触5 文法（動詞・形容詞）
8	琉球列島における言語接触6 発音
9	琉球列島における言語接触7 文字
10	接触言語の地域差
11	本土方言における言語接触
12	社会的背景と言語学における接触言語の分析について1（歴史）
13	社会的背景と言語学における接触言語の分析について2（地理・生活状況）
14	日常の言語活動における用例のとりだし（データ化）と分析について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

テキストは教員で用意する。

【参考文献】

漢文学 I

担当教員 平良 妙子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

漢文学Ⅱ

担当教員 平良 妙子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

グローバルコミュニケーション論

担当教員 岸本 孝根(10回)、兼本 敏(3回)、大城 朋子(3回)

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄は古から、万国津梁(世界の架け橋)と言われ、今日でも様々な分野において重要な役割を果たしています。現代社会はボーダレス化も進み、国境を越えたコミュニケーション能力を有する人材が、今後益々必要とされることが予測されます。

この講義では、このような社会に対応できるよう、様々な地域の語学や文化などの教養を深めながら、自国との類似点・相違点を理解し尊重することの重要性を学びます。

また、交流学习や現場実習を通して、国際化に適応し実践できる力を身につけることを目標とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	交換留学と海外語学・文化セミナー、認定留学、私費留学、ワーキングホリデーについて
2	留学経験者との懇談
3	韓国文化を学ぼう1：歴史、ハングル文字について
4	韓国文化を学ぼう2：年中行事、文化、社会
5	韓国文化を学ぼう3：基礎会話
6	ハワイ文化を学ぼう1：歴史
7	ハワイ文化を学ぼう2：言語、文化、社会、年中行事
8	ハワイ文化を学ぼう3：移民と日系社会(ハワイと沖縄)、ハワイ語会話
9	国際交流現場実習へ向けての準備
10	国際交流現場実習
11	国際交流現場実習
12	中国文化を学ぼう1：厂史、漢字について
13	中国文化を学ぼう2：年中行事、文化、社会
14	中国文化を学ぼう3：基礎会話
15	現場実習報告会
16	南米文化を学ぼう：国際交流学习

【履修上の注意事項】

コミュニケーション力を高めるために、グループ活動や現場実習も行います。どんな課題に対しても、積極的に参加するよう心がけて下さい。

【評価方法】

出席状況(遅刻の有無)、授業態度、発表内容、現場実習、レポート、小テストなどから総合的に判断します。

授業回数の3分1以上欠席した場合は、不可とします。

【テキスト】

担当教員が適宜、プリントを準備します。

【参考文献】

黒木雅子(1996)『異文化論への招待』朱鷺書房
林四郎 他(1995)『日本の漢字・中国の漢字』三省堂
その他、講義の中で紹介します。

現代沖縄文学論

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代沖縄文学の入門的な授業として大城立裕「カクテル・パーティー」を精読し、合わせて近代・現代沖縄文学の概要を講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス「沖縄文学」とはなにか。
2	大城立裕「カクテル・パーティー」1, 作家と作品。歴史的背景。
3	大城立裕「カクテル・パーティー」2, バフチンの小説理論。
4	大城立裕「カクテル・パーティー」3, 前章を読む。
5	大城立裕「カクテル・パーティー」4, 人称構造の問題。
6	大城立裕「カクテル・パーティー」5, 岡本恵徳の読解。
7	沖縄戦と詩歌。
8	沖縄の校歌。戦前・戦後。
9	目取真俊「平和通りと名付けられた町を歩いて」1
10	目取真俊「平和通りと名付けられた町を歩いて」2
11	又吉栄喜「ギンネム屋敷」1
12	又吉栄喜「ギンネム屋敷」2
13	長堂英吉「海鳴り」1
14	長堂英吉「海鳴り」2
15	その他の作品。
16	レポートを課すため予備日とする。

【履修上の注意事項】

なるべくわかりやすい講義を目指す但、若い世代にとって厳しい授業にならざるを得ないと思う。覚悟をもって履修してほしい。

【評価方法】

レポートで判断する。

【テキスト】

オキナワ終わらぬ戦争

【参考文献】

口承文芸学 I

担当教員 一俣 晴一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

口承文芸学について、特に沖縄の民間説話との特徴とを比較しながら説明していく。また、フィールドワークも実施する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	口承文芸学 I の概要の説明、受講するに当たっての心構えの説明
2	口承文芸の伝播と分類
3	神話
4	伝説 1
5	伝説 2
6	伝説 3
7	フィールドワーク
8	フィールドワーク（7と8は同一日に実施）
9	昔話 1
10	昔話 2
11	昔話 3
12	動物昔話 1
13	動物昔話 2
14	笑い話 1
15	笑い話 2
16	まとめ、レポート提出

【履修上の注意事項】

日本文化の学生は前期の「沖縄の民話」を受講するより、こちらをお薦めする。

【評価方法】

- 出席状況（欠席 5 回で単位は認められない。聴講は可能である。欠席数、遅刻数により減点）
- レポート提出

【テキスト】

特になし。毎時間に資料を配付する。

【参考文献】

古典に親しむ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

古典に親しむというのが本講義の目的である。今回は古事記を講読する予定である。

【授業の展開計画】

- 1 古事記入門
- 2 創世の神々
- 3 イザナキとイザナミ
- 4 アマテラスとスサノヲ
- 5 スサノヲの大蛇退治
- 6 大国主神の事績
- 7 アメノワカヒコ
- 8 タケミカヅチ
- 9 タケミナカタ
- 10 ホノニギ
- 11 海幸彦と山幸彦
- 12 ウカヤフキアヘズ
- 13 神武天皇
- 14 ヤマトタケル
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

毎回、小レポートを提出してもらう。

【評価方法】

毎回の小レポートと最後に提出するレポートによって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

その都度、指示する。

古典に学ぶ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

古典に学ぶというのが本講義の目的である。今回は宇治拾遺物語を講読する予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	宇治拾遺物語入門
2	序文を読む
3	第一話、第二話を読む
4	第三話、第四話を読む
5	第五話、第六話を読む
6	第七話、第八話を読む
7	第九話、第十話を読む
8	第十一話、第十二話を読む
9	第十三話、第十四話を読む
10	第十五話、第十六話を読む
11	第十七話、第十八話を読む
12	第十九話、第二十話を読む
13	第二一話、第二二話を読む
14	第二三話、第二四話を読む
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

毎回、小レポートを提出してもらう。

【評価方法】

毎回の小レポートと最後に提出するレポートによって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

その都度、指示する。

書道及び書道史 I

担当教員 比嘉 徳次

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中学校書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とする。授業前半を講義、後半を実技に充てる。書写と書道の違いをしっかりと踏まえ、実技では中学校書写の教科書を題材とし、唐代楷書の臨書の方法なども学ぶ。また、中国・日本の書道史を概観し、用具・用材やその扱い方にも及ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	中学校国語科学習指導要領における書写の位置づけ 実技
2	書写教育の現状と課題について 実技
3	筆順の原則① 実技
4	筆順の原則② 実技
5	許容の字体について 実技
6	漢字の誕生ー甲骨文ー 実技
7	金文について 実技
8	篆書・隸書について 実技
9	様々な書ー行書・草書・木簡・帛書ー 実技
10	書聖王羲之 実技
11	平面から立体へ 実技
12	二過折法と三過折法 実技
13	初唐の三大家について 実技
14	顔真卿と明朝体 実技
15	臨書の方法につて 実技
16	期末考査

【履修上の注意事項】

第1回で説明します

【評価方法】

第1回で説明します

【テキスト】

第1回で説明します（実習では中学校の教科書を利用します）

【参考文献】

第1回で説明します

書道及び書道史Ⅱ

担当教員 比嘉 徳次

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中学校書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とする。前半を講義、後半を実技に充てる。書写と書道の違いをしっかりと踏まえ、実技では中学校書写の教科書を題材とし、古典の臨書の方法なども学ぶ。また、中国・日本の書道史を概観し、用具・用材やその扱い方にも及ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文房四宝について 実技
2	宋代・元代の書家とその書 実技
3	明の書家とその書 実技
4	清の書家とその書 実技
5	行書・草書体について(臨書) 実技
6	仮名の誕生(万葉仮名) 実技
7	平仮名と変体仮名・片仮名 実技
8	三筆とその書 実技
9	三跡とその書 実技
10	平安朝の仮名の美 実技
11	禅僧の書「墨跡」(室町・鎌倉) 実技
12	江戸時代の書について 実技
13	記録用の公式書体「お家流について」 実技
14	文部科学省後援「硬筆・毛筆書写検定」について 実技
15	琉球における書について 実技
16	期末考査

【履修上の注意事項】

第1回で説明します

【評価方法】

第1回で説明します

【テキスト】

第1回で説明します (実技では中学校の教科書を利用します)

【参考文献】

第1回で説明します

ジャパノロジー I

担当教員 大城 朋子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

多様な文化を背景とした多様な人々との効果的なコミュニケーション能力を身に付けながら、日本文化や事情に関する知識や認識を深めていく。そして、それらを効果的に発信する方法を身につけると同時に多文化理解をも深めていく。そのために、課題遂行を通して自文化を正当に評価し発信する力をつけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。その際に、世界共通の言語となりつつある英語を道具として用い、グローバル時代に必要とされる力を身につけていく。

【授業の展開計画】

下記の学習目標を達成していくために、まず、日本文化に対する意識と自己アイデンティティについて問うところからスタートする。そして、日本人のコミュニケーションの実態を検証し、日本語と日本の生活文化、そして、時間と空間との関係から日本文化を認識・確認し、学びを重ねていく。更に、日本に向けた世界の目（メディア）を検証していくことで、内と外の双方の視点から日本文化を認識し、グローバルなコミュニケーション能力の基盤を構築していく。

1. ジャパノロジーとは
2. 文化とアイデンティティ
3. 言語・非言語コミュニケーション
4. 海外メディアの中の日本
5. メディアの中のジャパノロジー(映画、アニメ、マンガ、小説、他)
6. 時間と空間と文化
7. 言語と文化(挨拶、呼称・人称代名詞、他)
8. 言語と文化(省略表現、曖昧な日本語、他)
9. 言語と文化(相づち、敬語表現、外来語)
10. 言語と文化(日本のことわざ、忌み言葉、他)
11. 生活と文化(住)
12. 生活と文化(食)
13. 生活と文化(衣)
14. 日本の祭りと年中行事
15. 日本の祭りと年中行事
16. まとめ

【履修上の注意事項】

自主的に課題に取り組んで欲しい。

【評価方法】

出席、意欲、課題への取り組み、プレゼンテーション、期末の試験等、総合的に判断する。

【テキスト】

随時資料を配布するが、情報収集力を付けるためにも、各自が自主的に資料を収集することも期待される。

【参考文献】

- 『日本事情ハンドブック』(1995)大修館書店
『英語で話す日本の文化JAPAN AS I SEE IT』(2001)NHK国際局文化プロジェクト編集、講談社
『英語で紹介する日本辞典』(2010)堀口佐知子監修、ナツメ社 他

ジャパノロジーⅡ

担当教員 大城 朋子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

多様な文化を背景とした多様な人々との効果的なコミュニケーション能力を身に付けながら、日本文化や事情に関する知識や認識を深めていく。そして、それらを効果的に発信する方法を身につけると同時に多文化理解をも深めていく。そのために、課題遂行を通して自文化を正当に評価し発信する力をつけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。その際に、世界共通の言語となりつつある英語を道具として用い、グローバル時代に必要とされる力を身につけていく。

【授業の展開計画】

下記の学習目標を達成していくために、ジャパノロジーIに続き、日本人のコミュニケーション・スタイルを他文化のコミュニケーションスタイルと比較することからスタートする。そして、日本人の家族観や職業観、子供・若者・老年文化、ジェンダー・日本社会等に触れ、認識・確認を重ねていく。更に、各自の課題を決め調査発表を行っていく。その際に、日本の外からの視点を意識しながら検証していくことで、グローバルなコミュニケーション能力の基盤を構築していく。

1. オリエンテーション
2. コミュニケーション・スタイルとジャパノロジー
3. 家族観(結婚観、役割観、性差観、他)の比較
4. 子供文化・老人文化の比較
5. 若者文化の比較
6. 職業観・娯楽観の比較
7. 日本社会と外国人
8. 日本社会と性差
9. 調査発表&Discussion①
10. 調査発表& Discussion②
11. 調査発表& Discussion③
12. 調査発表& Discussion④
13. 調査発表& Discussion⑤
14. 多文化共生
15. グローバルコミュニケーション
16. まとめ

【履修上の注意事項】

自主的に課題に取り組んで欲しい。

【評価方法】

出席、意欲、課題への取り組み、プレゼンテーション、期末の試験等、総合的に判断する。

【テキスト】

随時資料を配布するが、情報収集力を付けるためにも、各自が自主的に資料を収集することも期待される。

【参考文献】

『日本事情ハンドブック』(1995)大修館書店

『英語で話す日本の文化JAPAN AS I SEE IT』(2001)NHK国際局文化プロジェクト編集、講談社

『英語で紹介する日本辞典』(2010)堀口佐知子監修、ナツメ社 他

情報システム論

担当教員 一芳山 紀子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ネット社会といわれる今日、ソフトウェアの知識や技術のみでは、解決できない諸問題が山積しています。本教科は、文系の学生が学ぶ機会の少なかったパソコンのハードウェア、ネットワーク、セキュリティそして情報倫理を包括的に学習し、情報運用管理能力を養い、ソフトウェア操作レベルのエンドユーザーから脱却し、実社会において「情報運用管理者」として活躍できるスキルを習得するものである。なお、本カリキュラムは、7年間の研究と実践により、専門家の範疇とされてきたハードウェアやネットワークを、全国に先駆けてエンドユーザー向けの理論として新たに体系づけたものである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	パソコンの種類とハードウェアの構成
2	本体を構成する部品とその役割
3	パソコンの解体と組み立て
4	パソコンの周辺機器 ～日常でのメンテナンス～
5	ソフトウェアの種類・歴史とその機能 ファイルの概念
6	パソコンのトラブル対処 ハードウェア編
7	パソコンのトラブル対処 ソフトウェア編
8	情報倫理1 情報倫理の必要性和ネチケット
9	情報倫理2 関連法規(個人情報保護法・不正アクセス禁止法その他)
10	情報倫理3 サイバー犯罪の事例と対処法
11	ネットワーク基礎
12	著作権
13	インターネットセキュリティ
14	単元別確認テスト
15	期末テスト
16	期末テストの解答と解説/成績発表

【履修上の注意事項】

原則として、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。

【評価方法】

出席・遅刻状況、学習態度、単元別テスト、期末試験などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

アプロスコンピュータ学院編：文系の学生のためのパソコン基礎概念 I

【参考文献】

パソコン整備士検定試験3級公式テキスト

ゼミナール入門

担当教員 田場裕規・西岡敏・黒澤亜里子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本文化学科開設のゼミの特色、研究内容への理解を深め、専門性の深化と具体的な方策について学ぶ。琉球文化コース、日本文化コース、多文化間コミュニケーションコースの各解説科目の基礎科目、応用科目、発展科目がどのように形成されているかを知り、卒業研究に向けて自分自身の専門性をどのように高めていくかを学び、研究計画を作成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	琉球語を考える
3	ことばの不思議
4	琉球文化を考える
5	日本古典文学の世界
6	近現代文学（1）
7	近現代文学（2）
8	古典文学と国語科教育
9	国語科教育を考える
10	多文化間コミュニケーションと日本語教育
11	比較・対照 言語と文化
12	図書館情報学（1）表現論入門、読書を学びに変えるためには
13	図書館情報学（2）
14	研究計画の立て方
15	研究計画書の作成・ゼミ希望調査
16	

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。③第1回オリエンテーションの時に、学籍番号順に座席を指定し、座席表を作成する。毎時間の出欠確認は、座席表をもって行う。④遅刻や途中退出は認めない。

【評価方法】

①出席を重視する。②研究計画書の内容を評価する。③担当者によって所定の課題を求める場合がある。④①～④を総合的に判断して評価を行う。

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文

担当教員 葛綿 正一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は卒業論文の作成をめざすものである。研究史をまとめ、分析の視点を設定し、論文の構成について考える。こうした方法論は広く応用が可能だと思われるので、ぜひ身につけてほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒論とは何か	17	中間発表（8）
2	先行研究の整理（1）	18	中間発表（9）
3	先行研究の整理（2）	19	中間発表（10）
4	先行研究の整理（3）	20	中間発表（11）
5	先行研究の整理（4）	21	中間発表（12）
6	分析の視点（1）	22	中間発表（13）
7	分析の視点（2）	23	中間発表（14）
8	分析の視点（3）	24	中間発表（15）
9	分析の視点（4）	25	再検討（1）
10	中間発表（1）	26	再検討（2）
11	中間発表（2）	27	再検討（3）
12	中間発表（3）	28	再検討（4）
13	中間発表（4）	29	まとめ（1）
14	中間発表（5）	30	まとめ（2）
15	中間発表（6）	31	
16	中間発表（7）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

卒業論文によって成績を評価するが、その際、先行研究の整理、分析の視点、論文の構成などを重視する。

【テキスト】

『枕草子・徒然草・浮世草子一言説の変容』

【参考文献】

そのつど指示する

卒業論文

担当教員 大野 隆之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

言うまでもなく卒業論文は学術論文であり、その単位が認められることで学士の称号が与えられる。したがってそれにふさわしい水準が当然のこととして要求される。そのためには、特に近代・現代文学を対象とする場合は、何よりも独創的な「問題のたて方」が重要である。作家の年譜を淡々と並べたり、無用な引用を長々としたあと、自分の人生観を披瀝するような随筆は学術論文ではない。問題をたてる、その問題に対処する適切な方法を選択し必要な資料をそろえる、独善に注意しながら慎重に考察を進める、わかりやすく論理的に執筆する、授業では、それら各段階のポイントを指導する。具体的には以下に示すような手順で進めていく予定である。

- 1、論文のスタイルⅠ。作家論か、作品論か。
- 2、論文のスタイルⅡ。資料中心の実証主義か、方法を中心とするか。
- 3、題目＝問題の設定。発表。
- 4、関連資料の収集。読解。
- 5、中間発表。
- 6、個別指導。
- 7、執筆。
- 8、卒業論文提出。

【履修上の注意事項】

4年次は就職や、資格取得等で多忙であるが、最初から分かっていることなので、しっかりとした年間計画を立てること。

なるべく全集を購入すること。

【評価方法】

【テキスト】

必要に応じプリントを配布する。参考文献については各自に指導する予定である。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

情報社会・生涯学習社会における図書館の諸問題について、図書館情報学を中心とする学問的視点から、各自がテーマを自由に設定し、卒業論文を執筆することで論理的思考の展開方法を学ぶ。

具体的には「問題解決能力」を身につけるために、各自の問題設定能力→あらゆる情報手段を使用した資料収集能力→収集した各種資料の比較・検討・選択能力→論文作成→発表→質疑応答・討論という論文作成作業プロセスをたどることにより、コミュニケーション能力まで含めた、社会生活の中で重要となる実践的能力を養う。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション：論文作成プロセス	17	中間発表①
2	執筆スケジュールの組み方	18	中間発表②
3	テーマ設定・研究方法の確定	19	中間発表③
4	資料・情報の収集方法	20	中間発表④
5	論文の構成方法	21	論文執筆・個別指導①
6	内容発表の方法・質疑応答・討議について	22	論文執筆・個別指導②
7	各自のテーマ・研究方法の発表①	23	論文執筆・個別指導③
8	各自のテーマ・研究方法の発表②	24	論文執筆・個別指導④
9	各自のテーマ・研究方法の発表③	25	論文内容の発表・質疑応答①
10	各自のテーマ・研究方法の発表④	26	論文内容の発表・質疑応答②
11	個別指導①	27	論文内容の発表・質疑応答③
12	個別指導②	28	論文内容の発表・質疑応答④
13	個別指導③	29	論文内容の発表・質疑応答⑤
14	個別指導④	30	卒業論文提出
15	まとめ	31	総括
16	後期日程について		

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成計画を立案し、計画に沿って着実に論文作成作業を進めること。

【評価方法】

提出された論文により評価する。

【テキスト】

各自のテーマ及び研究過程で適宜紹介する。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 西岡 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次で設定したテーマを4年次で卒業論文として結実させます。卒業論文提出者（4年次）は、琉球語諸方言についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。

【授業の展開計画】

卒論テーマの確定
全体の略図を考える（目次の作成）
先行研究の検索、収集、内容確認（参考文献目録の作成）
テーマに基づく調査および研究
中間発表および討論
注釈の付け方、文献引用の仕方
草稿の作成と提出
草稿の添削および個別指導
仮提出と添削
完全原稿の執筆および提出
卒論発表会

【履修上の注意事項】

個別的な面談を必要とします。中間発表を必ず行ってください。必要とあればゼミ合宿を行いません。

【評価方法】

論文の内容、形式、取り組み方などの観点から総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

卒業論文

担当教員 田場 裕規

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は卒業論文の作成をめざすものである。対象は概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も対象とする。

【授業の展開計画】

卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。

- 1 卒業論文の要件
- 2 卒業論文の進め方・年間計画作成
- 3 先行研究の検索、収集、整理①
- 4 先行研究の検索、収集、整理②
- 5 先行研究の検索、収集、整理③
- 6 先行研究の検索、収集、整理④
- 7 研究方法の検討①
- 8 研究方法の検討②
- 9 研究方法の検討③
- 10 小テーマの設定①
- 11 小テーマの設定②
- 12 卒業論文テーマの確定
- 13 卒業論文の構成
- 14 卒業論文の構成の検討
- 15 中間発表会
- 16 卒業論文の目次・章立て①
- 17 卒業論文の目次・章立て②
- 18 卒業論文の執筆方法①
- 19 卒業論文の執筆方法②
- 20 卒業論文の執筆①
- 21 卒業論文の執筆②
- 22 卒業論文の執筆③
- 23 卒業論文の執筆④
- 24 仮提出と添削
- 25 添削・個別指導①
- 26 添削・個別指導②
- 27 添削・個別指導③
- 28 卒業論文提出
- 29 卒業論文集の作成
- 30 卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

- ①学位論文であることを自覚し、自分自身の向き合うテーマに対して謙虚に取り組んで欲しい。
- ②調査・検討作業をレジュメ等にまとめるときは遺漏のないように努めること。
- ③提出締め切りは厳守すること。

【評価方法】

論文の内容、組み立て、取り組み状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 狩俣 恵一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文の対象分野は、オモロ・琉歌・組踊・琉球の神話や伝説や歌謡等の琉球文学である。テーマの設定、資料収集を行ったうえで、目次を作成しながら構想を立て、論文を執筆する。特に、自分のテーマと関連する先学の論文は十分に読み込むこと。

執筆に当たって重要なことは、「書くこと」は「考えること」であり、また文章力という技術を要することを認識すること。よって、実際に書き出す前に、ゼミの仲間同士で話し合い、質疑応答を活発にして論文の構想を練り上げるようにして欲しい。

【授業の展開計画】

第1回 卒業論文のテーマ設定の理由を各自が説明する。

第2回 論文執筆の段取りについて考える（目次の作成）

第3回～第14回 各自の発表と質疑応答

1. それぞれの研究テーマ設定についての説明と現段階の調査・研究報告
2. 資料収集と先行論文の報告

第15回 夏休みの課題をそれぞれ与え、それに関連した問題について討論する。

第16回 後期の最初の時間なので、1万字程度の論文を提出する。

第17回 各自の論文執筆に関連した質疑応答を行う。

第18回 卒業論文の仮提出

第19回～第28回 仮提出した論文の指導を受け、更に書き直す。

第29回～第32回 卒業論文集の作成

【履修上の注意事項】

1. 発表者が無断欠席した場合は、原則として単位を認めない。
2. 欠席が3分の1を超えた学生は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

卒業論文と平常点及び出席

【テキスト】

なし

【参考文献】

各自の研究テーマに応じてその都度指示する。

卒業論文

担当教員 山口 真也

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

前年度の「演習II」にて行った個人研究を学術研究へと発展させ、ソフトウェア制作、社会調査(アンケート・観察・インタビュー調査)を本格的に実施し、卒業研究を完成させる。また、「卒業論文集」を出版すると共に、協力機関への報告・図書館への配布・卒業研究発表会の開催を通じて、2年間の個人研究の成果を広く公開する。

【授業の展開計画】

<到達目標>①卒業研究に必要な先行研究の調査を通じて、多種多様な文献、情報収集能力(文献調査力)を身につける。②卒業論文を執筆する過程で、データ集計・情報分析力、情報整理能力(論理的な文章構成力)、情報発信力(プレゼンテーションスキル)を身につける。③卒業研究のための調査の実施や、成果報告を通じて、コミュニケーションスキルや他者と協働する意識を高め、卒業後、社会人として活躍するための基本的な知識・技能を習得する。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒業論文とはなにか?・卒業論文執筆の心得	17	卒業論文の執筆方法1 引用・脚注
2	卒業論文の進め方・作業計画書の作成	18	卒業論文の執筆方法2 調査結果の整理方法
3	学術論文の書き方1 主題規定文の作成	19	卒業論文の執筆方法3 調査結果の分析方法
4	学術論文の書き方2 序論執筆・問題意識	20	卒業論文の執筆1 (個別相談期間)
5	学術論文の書き方3 序論執筆・検証方法	21	卒業論文の執筆2 (個別相談期間)
6	学術論文の書き方4 学術論の文体	22	卒業論文の執筆3 (個別相談期間)
7	学術論文の書き方5 調査の方法	23	卒業論文の執筆4 (個別相談期間)
8	資料収集の方法1 図書・新聞記事	24	卒業論文の提出(仮提出)
9	資料収集の方法2 雑誌記事・学術論文	25	卒業論文の添削・個別指導1
10	卒業論文の構成1 目次・章立ての方法	26	卒業論文の添削・個別指導2
11	卒業論文の構成2 目次・章立ての発表①	27	卒業論文の添削・個別指導3
12	卒業論文の構成3 目次・章立ての発表②	28	卒業論文の最終提出・抄録の書き方
13	卒業論文の構成4 目次・章立ての発表③	29	卒業論文集の作成・印刷・配布
14	卒業論文の構成5 目次・章立ての発表④	30	卒業論文最終発表①
15	卒業論文の構成6 目次・章立ての発表⑤	31	卒業論文最終発表②
16	卒業論文の様式・英語タイトルの決定		

【履修上の注意事項】

- ・10月～12月にかけては、1週間1回30分程度の個別相談を行い、卒業論文の執筆を進めていきます。
- ・2月末～3月にかけて合宿形式で卒業研究発表会を行います。

【評価方法】

定期テスト・・・0点

レポート・・・80点 (卒業研究の到達度、卒業論文の完成度を評価します)

平常点・・・20点 (討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、個別相談時間の活用状況などを評価)

※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】

前年度の卒業論文集を使用します。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 大城 朋子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

テーマの最終設定、資料の収集と読み込み、論文の構想立て、実際の調査や分析等を行い、推敲を重ねるという一連の論文作成のプロセスを経て学術論文を完成させていきます。このような長期に渡る計画的で地道な研究を通して論理的な思考態度を身につけ、大学での学問の集大成とします。具体的には以下に示すような手順で進めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、テーマの絞り込み
2	論文作成構想と具体的年間計画
3	テーマに関する論文目録の作成と発表
4	先行研究の読み込みと発表①
5	先行研究の読み込みと発表②
6	先行研究の読み込みと発表③
7	仮説論証の方法と調査票作成
8	調査の実施とまとめ
9	調査の実施とまとめ
10	先行研究の読み込みと発表④
11	先行研究の読み込みと発表⑤
12	結果・分析・考察のまとめ①
13	結果・分析・考察のまとめ②
14	論文仮提出（12月第2週目の金曜日）
15	論文本提出（1月第2週目の土曜日）
16	論文発表と冊子作成

【履修上の注意事項】

上記の各プロセスの各段階で発表を繰り返し行っていくので、発表の頻度は高いものになります。準備を綿密に行うように。

【評価方法】

論文の内容を評価していきますが、論文完成に至までの過程における一連の課題や発表等への取り組みも評価の対象となります。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布します。

【参考文献】

各自が、論文に用いる参考文献の内容を他のゼミ生に紹介していきます。よって、参考文献は多岐にわたることになります。

卒業論文

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

各自が設定した課題、テーマについて調査・研究を行い、卒業論文をまとめます。

【授業の展開計画】

- 1 卒業論文の進め方 年間計画作成
- 2 調査、文献・資料収集の方法
- 3 参考文献目録の作り方
- 4 研究史のまとめ方
- 5 方法、視点の検討
- 6 小テーマの設定
- 7 仮説論証の練習
- 8 卒論テーマの確定
- 9 構想表の作り方
- 10 中間発表 ※夏期合宿での「中間発表会」をふくめ、各自年間3回以上
- 11 論文執筆
- 12 卒業論文の形式、体裁の確認
- 13 手直し／推敲／完成
- 14 合評会

【履修上の注意事項】

夏期合宿（卒論中間発表会）への参加は必須です。

【評価方法】

論文の内容、調査・研究方法、取り組みの姿勢、努力など総合的に評価します。

【テキスト】

各自の課題、テーマに応じて指導します。

【参考文献】

適宜指示します。

卒業論文

担当教員 兼本 敏

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

表現力（文章構成）、資料収集力、分析&要約などを示す内容の論文を作成してもらいます。これらの技能を示すのが卒業論文であり、それに対し大学が「学士号」を授与する。つまり、大学生生活で獲得した技能の集大成が「卒業論文」です。

【授業の展開計画】

※授業の展開は受講生各自の進捗に合わせて調整していく。

- 1 卒業論文の進め方 年間計画作成
- 2 調査、文献・資料収集の方法
- 3 テーマの設定
- 4 テーマの設定
- 5 方法、視点の検討
- 6 方法、視点の検討
- 7 参考文献リストの作成
- 8 卒論テーマの確定
- 9 論文執筆
- 10 中間発表 ※夏期合宿を行う
- 11 論文執筆
- 12 卒業論文の形式、体裁の確認
- 13 論文提出（最終）
- 14 手直し／推敲／完成
- 15 手直し／推敲／完成
- 16 発表会

【履修上の注意事項】

「卒業論文」は学生各自が作成するので、授業を受身的に受講するのではなく、各自の卒論のテーマの設定や方法論、論述の工夫など積極的に質問し検討する姿勢を持つこと。

【評価方法】

卒業論文によって成績を評価するが、その際、先行研究の整理、分析の視点、論文の構成などを重視する。学科で決められた要件を満たし提出日を厳守する。

【テキスト】

特定のテキストは設定しない。

【参考文献】

各自のテーマによって授業内で適宜紹介する。

地域社会情報論

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球文化圏における文献資料（特に琉球漢文）を扱い、その読み解きを進めることで地域社会の文化を知るとはどのようなことを考えます。また、文献に出てくる地域を実際に訪ねるなど、教室・野外の両方向からのアプローチで、琉球文学についての見識を深め、その知識を情報として発信できる能力の向上を目指します。

【授業の展開計画】

授業では、以下のことの繰り返しを計画しています。

- ・学生への課題の提示
- ・学生によるレジュメの準備および発表
- ・学生および教員によるコメント・討議

また、琉球文学に関する現地訪問（琉球文学の旅）を計画しています。

その際に以下のことを行います（入場料など実費が必要となる場合あり）。

- ・現地訪問の計画・しおりの作成
- ・現地訪問（フィールドメモ・撮影など）
- ・現地訪問で得た資料の整理およびまとめ

【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがあります。

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

担当者を決めて発表を行うので、担当者は準備を怠らないこと。

【評価方法】

平常点、レポート、試験。平常点とレポートを重視します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容、現地訪問の際の貢献度などについて評価します。

【テキスト】

初回のときに指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

地域データベース演習

担当教員 伊佐 常利・芳山 紀子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

パソコンの初歩的知識・技術を習得している者。2年次までにおいてパソコンの基礎導入である、ソフトウェア操作について体系的な学習を受けた者、および、同等の知識・技術を持っている者を対象とします。本講義では、前学年までに習得したExcel・Wordなどの基礎的なIT活用技術を基に、文系の学生のための更なる高度な分野でのITスキルの習得をめざし、卒業年度までに、個々人でPHPと連携した簡単なデータベースを構築することを最終目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	データベースとは/MySQLの概要と環境設定①
2	MySQL 1 MySQLの概要と環境設定②
3	MySQL 2 テーブルの作成、確認、削除/データ型と列制約/データの挿入/データの検索
4	MySQL 3 where句/比較演算子/論理演算子
5	MySQL 4 並び替え/データの上書き/データの削除
6	MySQL 5 あいまい検索/結合MySQL課題作成
7	MySQL課題作成
8	MySQL課題作成
9	PHP基礎 1 コーディング基礎と出力
10	PHP基礎 2 変数とデータ/演算子(算術・文字列連結・代入)
11	PHP基礎 3 if文/比較演算子/if else/if else if else
12	PHP基礎 4 論理演算子/for
13	PHP基礎 5 関数
14	PHPとDB 1 フォームの送受信とデータベースとの連携 2
15	PHPとDB 2 データベースとの連携 2
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

本授業は、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。(上記2科目の単位を取得していない学生は受講できない)

【評価方法】

演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。(出席回数 が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。)

【テキスト】

すべてオリジナルテキスト(アプロスコンピュータ学院)

【参考文献】

必要に応じて配布

地域データベース論

担当教員 伊佐 常利、芳山 紀子

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

授業前半は、人文情報コースでのソフトウェア研究のための技術向上を目的として、ActionScriptを用いたFLASHでのクイズゲーム等の製作方法を学習します。

授業後半はAccessを活用し、基本的なデータベースの設計と作成、そしてデータベースの応用を体系的に学習し、独自のデータベースの構築ができるよう、その前提知識を習得します。

。(1回目～8回目：伊佐担当、9回目～16回目：芳山担当)

※人文情報コースにてソフトウェア制作を卒業研究のテーマとする学生は必ず受講すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ActionScript基礎① ActionScriptとの概念と基本記述/フレーム操作
2	ActionScript基礎② 変数とその役割/テキスト操作/プロパティ/ムービーシンボル/Ikボーン
3	ActionScript基礎③ 関数とその役割/ボタンイベント
4	ActionScript基礎④ 条件分岐 (if文)
5	ActionScript応用① 簡易ゲームの作成①
6	ActionScript応用② 簡易ゲームの作成②
7	ActionScript応用③ 簡易ゲームの作成③
8	最終課題
9	データベースとは/Accessの基礎知識/データベースの設計と作成/テーブルの作成①
10	テーブルの作成②/リレーションシップの作成/クエリの作成
11	フォームの概要/フォームの作成 (練習問題)
12	クエリの概要/クエリの作成 (練習問題)
13	レポートの概要① レポートの作成① (練習問題)
14	レポートの概要② レポートの作成② (練習問題)
15	ピボットテーブルとピボットグラフの作成 (練習問題)
16	総合演習問題

【履修上の注意事項】

- 1) 人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とする。
- 2) 人文情報コースにてデータベース・ソフトウェア制作を卒業研究のテーマとする(予定の)学生は必ず受講すること。

【評価方法】

- 1) 演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

各担当の1回目の授業にて指示します。

【参考文献】

図書館概論

担当教員 山口 真也

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業は、図書館の存在意義・種類・機能を幅広く学び、現代の図書館が直面している課題や職員制度の問題点などを説明する。司書資格課程の導入科目として位置づけ、必要となる基礎知識を習得するとともに、自己の職業適性を考える機会とする。一般学生については、図書館の意義・利用法を幅広く知り、大学生活や将来の職業生活・社会生活に役立つ知識を得ることを目的とする。

【授業の展開計画】

<到達目標>①図書館情報学を学ぶ上での基本知識（用語の意味など）と学習態度を身につけることができる。②図書館の存在を支える「図書館の自由」という理念を、民主主義、表現の自由、知る自由といったキーワードを用いて、適切に説明することができる。③現代の図書館と図書館司書が抱える制度的な問題を知り、自身が在住する自治体の図書館活動に結びつけて理解することができる。④幅広い図書館の種類、豊かな機能、司書の役割を知り、自己の職業適性を考えることができる。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・図書館の定義と機能・サービスの種類
2	図書館の構成要素と現代的課題(1)：建物・資料
3	図書館の構成要素と現代的課題(2)：職員
4	図書館の構成要素と現代的課題(3)：利用者
5	図書館の存在意義と「図書館の自由」(1)：民主主義・表現の自由・知る自由・図書館戦争
6	図書館の存在意義と「図書館の自由」(2)：資料収集・提供の自由 アンネの日記/はだしのゲン問題
7	図書館の存在意義と「図書館の自由」(3)：利用者の秘密を守る
8	図書館の種類(1) 公共図書館①：設置主体・目的、サービス対象、収集する資料、「任務と目標」
9	図書館の種類(2) 公共図書館②：サービスの三原則
10	図書館の種類(3) 学校図書館①：設置主体・目的、サービス対象
11	図書館の種類(4) 学校図書館②：設置義務、司書教諭制度とその課題、沖縄の学校図書館の特徴
12	図書館の種類(5) 大学図書館：設置主体・目的、サービス対象、課題
13	図書館の種類(6) 専門図書館：種類、特徴、地方議会図書室、病院図書館、刑務所図書館など
14	図書館の種類(7) 国立国会図書館・外国の図書館：種類、目的、利用方法、納本制度
15	図書館をめぐる様々な制度とその課題： 指定管理者制度、授業のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

- ・図書館司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。
- ・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、單元ごとに出題する演習問題（自由提出課題）に積極的に取り組みましょう。

【評価方法】

定期テスト・・・80点（期末試験の到達度により評価）
 平常点・・・20点（授業時間中の提出物の到達度により評価）
 レポート・・・30点（※自由提出レポートの点数をテストの点数に点数を追加して評価することもある）

【テキスト】

1回目の授業で指示します。
 適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

有川浩『図書館戦争』（角川文庫），角川書店，2011

図書館サービス概論

担当教員 一呉屋 美奈子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人数が多かった場合は、4年次を優先いたします。

【授業のねらい】

利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説し、以下の4項目に関して各種サービスの特質を明らかにする。

- 1) 図書館サービスの意義と種類
- 2) 利用者理解と利用者対象別サービス
- 3) 図書館サービスと著作権
- 4) 図書館サービスの協力

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	図書館サービスの意義・理念・原則
2	図書館サービスの歴史と現状（1）
3	図書館サービスの歴史と現状（2）
4	図書館サービスの種類と方法（1）貸出し・閲覧
5	図書館サービスの種類と方法（2）情報サービス
6	図書館サービスの種類と方法（3）複写・予約・リクエスト
7	利用者対象別サービス（1）：児童
8	利用者対象別サービス（2）：ヤングアダルト・一般成人
9	利用者対象別サービス（3）：高齢者・障害者
10	利用者対象別サービス（4）：外国人・アウトリーチサービス
11	館種別図書館サービス
12	図書館サービスと著作権
13	図書館サービスの計画・評価
14	図書館協力
15	まとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

【評価方法】

期末試験、またはレポートと出席日数で総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：『図書館サービス概論 改訂』高橋正也編 樹村房 2012 （現代図書館情報学シリーズ）

【参考文献】

参考文献：『図書館学基礎資料』今まど子編 樹村房

図書館情報資源概論

担当教員 山口 真也

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

図書館活動の基本的なあり方を、図書館情報資源（資料・メディア）という側面に注目して、収集の理念・方法、選択ツールの種類、管理・保存方法について具体的に学ぶとともに、関連領域である出版と流通のあり方について理解し、図書館活動の意義、役割をより深く学ぶ。

【授業の展開計画】

<到達目標>①図書館資料（情報資源）の定義と種類を理解し、それらを図書館サービスの多様性との関わりの中で説明することができる。②図書館資料の収集・提供をめぐるのは、「価値」と「要求」という2つの立場があることを理解し、現実にかかる様々な問題をこの2つの立場に区分して考えることができる。③図書館資料をめぐる制度である日本独自の出版・流通制度の特徴を理解し、その意義と問題点を説明することができる。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・図書館情報資源（資料）の定義
2	図書館資料（情報資源）の種類（1）図書①
3	図書館資料（情報資源）の種類（2）逐次刊行物（雑誌）
4	図書館資料（情報資源）の種類（3）逐次刊行物（新聞）新聞は事実を伝えるか？
5	図書館資料（情報資源）の種類（4）小冊子、灰色文献
6	図書館資料（情報資源）の種類（5）書写資料・視覚障害者向け資料
7	図書館資料（情報資源）の種類（6）電子書籍・インターネットサービス、電子図書館
8	図書館資料（情報資源）の収集 収集方針・選択理論・ツール
9	図書館資料（情報資源）の整理（1）分類、人文・社会・自然科学分野の資料とは？
10	図書館資料（情報資源）の整理（2）目録・排架・装備
11	図書館資料（情報資源）の収集 資料保存
12	図書館資料とパブリックサービス（1）図書館の自由との関わり・資料収集、提供の自由とは？
13	図書館資料とパブリックサービス（2）堺市立図書館BL本問題①
14	図書館資料とパブリックサービス（3）堺市立図書館BL本問題②
15	図書館資料をめぐる諸制度： 取次、再販制の意義と問題、授業のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

・図書館司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。後期から受講を始める人は履修ガイドをよく読むこと。
・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、單元ごとに出題する演習問題（自由提出課題）に積極的に取り組みましょう。

【評価方法】

定期テスト・・・80点（期末試験の到達度により評価）

平常点・・・20点（授業時間中の提出物の到達度により評価）

レポート・・・30点（※自由提出レポートの点数をテストの点数に点数を追加して評価することもある）

【テキスト】

1回目の授業で指示します。

適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

図書館文化論

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

生涯学習社会・情報社会における図書館について、国策レベルの公共図書館の内容と変化の方向性（理想像）を把握した上で、現在の公共図書館における課題・問題点のとらえ方の基礎を学ぶ。

さらに、最新の図書館情報学の学問的成果や、実際の図書館の諸相を広く取り上げ、分析方法の基礎を身につける。

なお、3年次から「図書館情報学ゼミ」を専攻しようとする学生には、基礎ゼミと位置づける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：科目内容と進め方の説明
2	公共図書館の基礎知識 1
3	公共図書館の基礎知識 2
4	公共図書館の基礎知識 3
5	レポートA（図書館像①）提示・説明
6	レポートA（図書館像①）発表
7	レポートA（図書館像①）発表・まとめ
8	レポートB（図書館像②）：提示・説明
9	レポートB（図書館像②）：発表
10	レポートB（図書館像②）：発表・まとめ
11	レポートC（図書館像③）：提示・説明
12	レポートC（図書館像③）：発表
13	レポートC（図書館像③）：発表・まとめ
14	レポートD（図書館の現状）提示・説明
15	全体のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

2年次前期までに、司書資格の基礎的科目である「図書館概論（前期）」「図書館サービス概論（前期）」「図書館情報資源概論（後期のため同時履修）」を履修しておくことが望ましい。

3年次から「図書館関係ゼミ」を専攻しようとする学生は、必ず2年次に履修しておくこと。

【評価方法】

出席状況及びレポート、授業への参加姿勢による総合評価とする。

【テキスト】

必要に応じて、適宜プリントを配布する。

【参考文献】

日本近代文学史 I

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

明治、大正、昭和（戦前）の文学史の流れを辿り、近代文学の歴史性を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入 明治・大正・昭和文学の概観。
2	明治文学の概要
3	自然主義と反・自然主義
4	森鷗外と夏目漱石
5	大正文学の概要
6	耽美派と白樺派
7	志賀直哉と芥川龍之介
8	昭和（戦前）文学の概要
9	新感覚派とプロレタリア文学
10	横光利一と川端康成
11	課題小説を読む、一
12	課題小説を読む、二
13	課題小説を読む、三
14	近代文学史の流れを確認する。
15	まとめ。
16	

【履修上の注意事項】

電子辞書を持参するとよい。

【評価方法】

三回のレポートで評価する。

【テキスト】

『日本近代短篇小説選・昭和篇一』岩波文庫

【参考文献】

日本近代文学史Ⅱ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

戦後文学の流れを辿り、現代文学の多様性を理解する。

【授業の展開計画】

- 1、戦後文学の始発
- 2、無頼派
- 3、戦後派
- 4、三島由紀夫
- 5、大岡昇平と島尾敏雄
- 6、安部公房と大江健三郎
- 7、第三の新人
- 8、内向の世代
- 9・10・11、現代文学の多様性
- 12・13・14、課題小説を読む
- 15、まとめ

【履修上の注意事項】

電子辞書を持参するとよい。

【評価方法】

三回のレポートによって評価する。

【テキスト】

『日本近代短編小説選・昭和篇三』岩波文庫

【参考文献】

そのつど指示する。

日本芸能史

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本の芸能の中で、沖縄の芸能の存在は重要な位置にある。それは国が指定する無形文化財の指定数からもわかる。その指定を受けている「組踊」や「琉球舞踊」などは、首里城を中心に琉球の士族(ユカッチュ)によって深められてきた。

その発達過程において、「能・狂言」「歌舞伎」など日本古典芸能の影響を受けているといわれている。本講義では、能楽・歌舞伎・日本舞踊・上方舞などを中心に講義をすすめ、沖縄の古典芸能との関係性を考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義説明
2	組踊の創始者玉城朝薫の生涯
3	能楽概説
4	能楽概説
5	能鑑賞「船弁慶」
6	能の表現「謡」
7	能の表現「仕舞」
8	作品研究「道成寺」①道成寺説話について
9	作品研究「道成寺」②詞章講読
10	作品研究「道成寺」③詞章講読
11	作品研究「道成寺」④映像鑑賞
12	作品研究「道成寺」⑤組踊「執心鐘入」との比較
13	「京鹿子娘道成寺」概説・詞章講読
14	「京鹿子娘道成寺」②映像鑑賞
15	舞と踊「地唄舞」・三線音楽と三味線音楽「地唄・長唄」
16	試験

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。

芸能鑑賞のため、視聴覚教材を使用する講義が数回ある。

レポート提出を2回程度予定している。

【評価方法】

出席・レポート・試験

【テキスト】

テキストはない。随時プリントを配布する。

【参考文献】

『能狂言事典』平凡社

『組踊への招待』矢野輝雄著 琉球新報社

日本語史 I

担当教員 仲原 穰

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本語史Ⅱ

担当教員 仲原 穰

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本古典文学史

担当教員 葛綿 正一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

古代・中世・近世文学の流れを辿り、それぞれの歴史性について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	古代・中世・近世文学の概観
2	古代文学の概要
3	万葉集の世界一
4	万葉集の世界二
5	古今集の世界
6	平安朝文学の世界
7	中世文学の概要
8	中世の和歌
9	中世の軍記
10	平家物語の世界
11	近世文学の概要
12	近世の俳諧
13	近世の小説
14	雨月物語の世界
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

電子辞書を持参するとよい。

【評価方法】

三回のレポートで評価する。

【テキスト】

『日本古典読本』筑摩書房

【参考文献】

そのつど指示する。

日本語音声学

担当教員 仲間 恵子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちの音声器官から発せられる声（言語音声）とは何かを現代日本語・標準語を中心に考え、必要に応じて諸言語との比較を行う。日本語音声学 I での講義内容をふまえ、日本語標準語の音声の考察を深める。また、音声学における国際音声字母（IPA）の理論と表記法について日本語音声を主な具体例として学ぶ。

【授業の展開計画】

- 1 現代代日本語標準語の規範的な音声
- 2 母音 1（みじか母音音素となが母音音素）
- 3 母音 2（連母音／二重母音と表記法）
- 4 母音 3（標準語の母音音素とジョーンズの基本母音）
- 5 母音 4（母音の国際音声表記(IPA)について）
- 6 テスト（第1回）
- 7 子音 1（音節を開く子音音素／音節を閉じる子音音素）
- 8 子音 2（直音と拗音）
- 9 子音 3（直音と合拗音）
- 10 子音 4 つまる音（促音）
- 11 音節 1 はねる音（撥音）の調音と音声表記
- 12 音節 2（日本語のみじかい音節となが音節）
- 13 音節とアクセント
- 14 アクセント
- 15 アクセントとイントネーション
- 16 テスト（第2回）

【履修上の注意事項】

項 講義は音声学に関する専門的な用語が多くありますが、常に用語がさししめず具体的な音声、または具体的なことがらを考えながら受講してください。時に一緒に発声することがあります。それができる学生の受講を希望します。

【評価方法】

テスト2回（各45%）。以上で評価の90%とする。残り10%を出席状況で判断する。

【テキスト】

テキスト 「日本語 現代（音韻）」『言語学大辞典第4巻』上村幸雄
※テキストは教員で用意する。

【参考文献】

(1) 『ことばの科学入門』GLORIA J. BORDEN/KATHERINE S. HARRIS 廣瀬
肇訳 メディカルリサーチセンター (2) 『日本語音声の研究 全7巻』杉藤美代子 和泉書院

日本語学概論

担当教員 中本 謙

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本語学入門

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが普段もっとも口にする、耳にするコトバは、「日本語」と呼ばれる言語です。この授業では、現代共通語を題材に日本語の特徴について学んでいき、日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。そして、その専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。ふだん何気なく、無意識に使っている日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。この「入門」では、語彙・意味を中心に解説していきます。また、言語の地域差に関わって文法についても少し触れます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、〇×クイズ
2	「言語」とは？「日本語」とは？
3	文・語・形態素、品詞について
4	語彙とは、語の構成
5	語種と語感(1)：語種の出自とその特徴、和語と漢語
6	語種と語感(2)：外来語・混種語
7	語の位相(1)：集団語・役割語、性差とことば
8	語の位相(2)：世代差とことば、場面とことば
9	中間試験
10	語の位相(3)：地域差とことば、琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ
11	意味とは、意味研究のいろいろ
12	語彙の意味関係(1)：包摂関係、類義関係
13	語彙の意味関係(2)：対義関係
14	語彙の意味関係(3)：意味の変化と多義語の成立、比喻、慣用表現
15	「意味」を捉える
16	期末試験

【履修上の注意事項】

履修上の注意事項 出席と授業への参加度を重視します。
出席日数が3分の2に満たない場合は原則として単位を認めないので、注意。
講義の中で、予告なしに小テストを行うことがあります。

【評価方法】

評価方法 出席&授業への参加度・小テスト(40%)＋中間試験(30%)＋期末試験(30%)
※中間試験の日程は、講義の進み具合により変わる可能性があります。

【テキスト】

テキストは使用せず、プリント・資料を配布します。

【参考文献】

仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、町田健編／中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社、
宮地裕 他編著『講座日本語と日本語教育第6巻 日本語の語彙・意味(上)』明治書院
その他、授業中に適宜紹介します。

日本語表現法演習 I

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本語文法基礎 I

担当教員 一田仲 一枝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 日本の古典を読むための基礎力を養成する。
- (2) そのために日本語古典文法を学びなおす。
- (3) 日本語古典文法を使って漢文訓読の基礎力をつける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	か'イ'ソ'ス なぜ古典を学ぶか。文法・古典文法とはなにか。「日本語古典文法」とはいつの時代のものか
2	講義と演習①現在高等学校で使われている古典文法本等を参考に、古典文法の言語体系をとらえる
3	講義と演習②各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
4	講義と演習③各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
5	講義と演習④各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
6	講義と演習⑤各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
7	講義と演習⑥各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
8	講義と演習⑦各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
9	講義と演習⑧各品詞の特性、活用等についての講義解説、分析実習。
10	講義と演習⑨漢文訓読について。
11	講義と演習⑩漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
12	講義と演習⑪漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
13	講義と演習⑫漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
14	講義と演習⑬漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
15	講義と演習⑭漢文句法についての講義解説、訓読実習をする。
16	テスト

【履修上の注意事項】

- (1) 後期「日本語古典文法Ⅱ」も継続履修する。
- (2) A4サイズのノートを準備し、指示に応じて提出する。
- (3) 読解演習のときは、古語辞典、漢和辞典等を持参する。
- (4) 授業時に配布される資料は、後で追加配布等はできません。

【評価方法】

出席点 + テスト点 + ノート・提出物点 = 成績点

【テキスト】

『楽しく学べる 基礎からの古典文法』 (第一学習社) 530円
『基礎から解釈へ 漢文必携』 (桐原書店) 540円

【参考文献】

国語便覧、古語辞典、漢和辞典

日本語文法基礎Ⅱ

担当教員 一田仲 一枝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 日本の古典を読むための基礎力を養成、強化する。
- (2) そのために日本語古典文法を学びなおし、言語について理解を深める。
- (3) 日本語古典文法を使って漢文訓読の基礎力をつけ、読解力を伸ばす。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス 前期の学習に引き続き、文法教育の新しい流れ等も概観しつつ古典文法全体を把握する
2	講義と演習①現在使われている『古典』教科書掲載作品を文法の面から読みなおす。
3	講義と演習②読解実習をする。
4	講義と演習③読解実習をする。
5	講義と演習④読解実習をする。
6	講義と演習⑤読解実習をする。
7	講義と演習⑥読解実習をする。
8	講義と演習⑦文法教育プランを考える
9	講義と演習⑧敬語について文法の面からアプローチする。
10	講義と演習⑨和歌について古典文法の面からのアプローチする。修辞法を理解する。
11	講義と演習⑩漢文訓読について。
12	講義と演習⑪訓読実習をする。
13	講義と演習⑫訓読実習をする。
14	講義と演習⑬訓読実習をする。
15	講義と演習⑭訓読実習をする。
16	テスト

【履修上の注意事項】

- (1) 前期「日本語古典文法Ⅰ」を履修していること。
- (2) A4サイズのノートを準備し、指示に応じて提出する。
- (3) 読解演習のときは、古語辞典、漢和辞典等を持参する。
- (4) 授業時に配布される資料は、後で追加配布等はできません。

【評価方法】

出席点 + テスト点 + ノート点 = 成績点

【テキスト】

『改訂版 楽しく学べる 基礎からの古典文法』（第一学習社） 530円
『基礎から解釈へ』（桐原書店） 520円

【参考文献】

『国語便覧』

日本語文法論 I

担当教員 一當山 奈那

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代日本語の文法論，特に単語の文法的な側面を対象とする形態論の基本的な事項について解説する。それぞれの言語には文の構成材料としての単語と，それらを文にまとめあげていくきまりとしての文法とがそなわっている。単語は語彙と文法とのふたつの側面をもち，それらは相互にはたらきかけあいながら統一している。文のなかでのむすびつき，現実との関係をあらわすために，単語はさまざまな形式（形態論的な形）をとってあらわれるが，それぞれの形式はどのような文法的な意味をあらわし，文の中でどのように機能しているか考察する。

【授業の展開計画】

講義の進捗によっては，内容に変更があります。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	文と単語
3	文の構造
4	名詞の格
5	動詞の文法・総論
6	ボイス
7	テンス・アスペクト
8	ムード
9	連用形
10	連体形
11	条件形
12	形容詞と連体詞
13	副詞と陳述副詞
14	後置詞と接続詞
15	終助詞
16	試験

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

- 1、学期末に授業内容の理解度を問う試験を実施する（50点）。
- 2、適宜，授業内容に関するコメントシートに記入し，提出する（50点）。

【テキスト】

ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

鈴木重幸1972『日本語文法形態論』（むぎ書房）
 明星学園・国語部1968『にっぽんご4の上』（むぎ書房），その他講義のなかで適宜紹介する。

日本史概論 I

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の原始・古代から近世初期までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】

旧石器時代から室町時代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	旧石器時代の日本について港川人を中心に学ぶ。
2	縄文時代から弥生時代への移行について邪馬台国論争を中心に学ぶ。
3	大和政権の成立・発展と東アジア社会について学ぶ。
4	推古朝の政治と飛鳥文化について学ぶ。
5	平安初期の政治と文化について学ぶ。
6	摂関政治と国風文化について学ぶ。
7	武士の台頭と平氏政権について学ぶ。
8	鎌倉幕府の成立と執権政治の展開について学ぶ。
9	元寇と幕府の衰退及び鎌倉文化について学ぶ。
10	南北朝の動乱と室町幕府の政治・外交について学ぶ。
11	琉球王国の成立と発展について学ぶ。
12	東アジア社会と琉球の大交易時代について学ぶ。
13	惣村の発展と応仁の乱及び室町文化について学ぶ。
14	戦国の争乱とヨーロッパ人の来航について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

特に指定教科書はない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

日本史概論Ⅱ

担当教員 新城 俊昭

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちが過去をふり返り、ある出来事について語ることは、現在の歴史観で過去の歴史事実に評価を下していることになる。いわば、現在の歴史観が明日の歴史の指針を示しているといえよう。私たちが過去の歴史事実にこだわるのは、その歴史評価を下している現在の目が、そのまま未来を見つめているからにほかならない。本講義では、日本の近世から現代までの歴史を、史料・資料の分析を通して歴史事象の因果関係を明らかにし、その歴史的意義について考察する。

【授業の展開計画】

織豊政権から現代までの歴史を概観するとともに、毎時間テーマを設定して学習を展開し、課題を深く掘り下げて学ぶことにより歴史的な思考力を培う。また、琉球・沖縄史にも視野を広げ、ウチナーンチュのアイデンティティの形成についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	豊臣秀吉と琉球の関係について学ぶ。
2	江戸幕府の成立と幕藩制国家の仕組みについて学ぶ。
3	薩摩藩島津氏の琉球侵略について学ぶ。
4	幕藩制国家に組み込まれた近世琉球の社会と文化について学ぶ。
5	欧米列強の進出と日本の開国について学ぶ。
6	明治維新と廃琉置県(琉球処分)について学ぶ。
7	近代日本における沖縄の位置づけについて学ぶ。
8	不平等条約の改正と国境の確定について学ぶ。
9	日清戦争・日露戦争と沖縄の日本への同化について学ぶ。
10	第一次世界大戦と国際社会における日本の動向について学ぶ。
11	アジア太平洋戦争と沖縄戦の実相から見えるものについて学ぶ。
12	戦後日本の政治と米軍支配時代の沖縄について学ぶ。
13	高度経済成長期の日本と沖縄の「祖国復帰運動」について学ぶ。
14	現代日本の課題と沖縄の基地問題について学ぶ。
15	授業のまとめ。沖縄歴史検定等で琉球・沖縄史についてのまとめ学習もする。
16	期末試験。

【履修上の注意事項】

特になし。毎回のテーマの進捗状況によって、扱うテーマを多少変更する場合もある。

【評価方法】

毎時間の評価及び課題と試験の結果で評価する。試験は本講座で学んだ基礎知識の確認と、予め与えた課題から出題する。配分は毎時間の授業評価3割、課題3割、テスト4割。また、授業に取り組む姿勢や意欲も重視する。場合によっては加点・減点することがある。

【テキスト】

教科書は特に指定しない。毎回レジュメや史料・絵図などの参考資料を配布。副読本として『沖縄から見える歴史風景』新城俊昭著（編集工房東洋企画発行）を使用。

【参考文献】

プリントで配布または毎時間授業で紹介。

日本文化基礎演習

担当教員 大野 隆之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・人文情報コースは選択必修科目 (2013年度前期 閉講)

【授業のねらい】

樋口一葉「たけくらべ」をグループで輪読することにより、朗読力、明治期の語彙に関する調査、読解力、批評力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1, 教員による模擬発表、諸注意。
- 2, グループによる発表。

【履修上の注意事項】

グループ結成後の履修取り消しは認めない。

【評価方法】

発表内容が90%。特に朗読部分を最重視する。
期末テストを行う。これはグループ内における個人の力を確認するためのもので、評価の基本はグループの持ち点による。ただし不受験の場合は不可になるので注意。

【テキスト】

新潮文庫『にごりえ・たけくらべ』

【参考文献】

日本文化特殊講義Ⅲ

担当教員 國場 厚子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

古今東西、人間は言語によって対象を認識し表現してきた。評論や文学作品に表れた書き手の価値観や、それを述べるに用いられた論理構造をとらえることによって、言語で表現することの意味を考えていく。あわせて、テキストそのものを精緻に読む能力を身につけることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	読むこと・書くことは
3	日本古典①
4	日本古典②
5	日本古典③
6	日本古典④
7	中国古典①
8	中国古典②
9	中国古典③
10	近代評論①
11	近代評論②
12	近代評論③
13	現代評論①
14	現代評論②
15	現代評論③
16	総括

【履修上の注意事項】

- (1) 国語科教職課程履修者のみの履修を認める。
- (2) 課題を出すことが多くなるが、きちんと果たして授業に臨むこと。

【評価方法】

提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

プリントを配布する。

日本文化特殊講義Ⅳ

担当教員 國場 厚子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

古今東西、人間は言語によって対象を認識し表現してきた。評論や文学作品に表れた書き手の価値観や、それを述べるに用いられた論理構造をとらえることを通して、言語によって表現することの意味を考えていく。日本文化特殊講義Ⅲの内容をふまえ、テキストそのものを精緻に読む能力のさらなる向上を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	読むこと・書くことは
3	日本古典①
4	日本古典②
5	日本古典③
6	日本古典④
7	中国古典①
8	中国古典②
9	中国古典③
10	近代評論①
11	近代評論②
12	近代評論③
13	現代評論④
14	現代評論⑤
15	現代評論⑥
16	総括

【履修上の注意事項】

- (1) 国語科教職課程履修者のみの履修を認める。
- (2) 課題を出すことが多くなるが、きちんと果たして授業に臨むこと。

【評価方法】

提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

プリントを配布する。

日本文化論 I

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、日本文化について概観するものである。まず絵巻と古典文学について考え、次に演劇と古典文化について考え、最後に映画と現代文化について考える。日本文化の多様性や広がりを知ってほしい。映像資料を活用する予定である。

【授業の展開計画】

- 1、文化論の陥穽
- 2～5、絵巻と日本文化
- 6～10、演劇と日本文化
- 11～14、映画と日本文化
- 15、まとめ

【履修上の注意事項】

電子辞書などを携帯するとよい。

【評価方法】

三回のレポートによって成績を評価する。

【テキスト】

秋山虔『日本古典読本』筑摩書房

【参考文献】

その都度、指示する。

日本文化論Ⅱ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は日本文化に関する名著を読み解きながら、日本文化論の系譜を辿るものである。

【授業の展開計画】

- 1、日本文化論の名著
- 2・3、『菊と刀』を読む
- 4、小泉八雲を読む
- 5、『武士道』を読む
- 6、『茶の本』を読む
- 7・8・9、英語で日本文化を読む
- 10・11・12、外から見た日本文化
- 13、『風土』を読む
- 14、『「いき」の構造』を読む
- 15、まとめ

【履修上の注意事項】

電子辞書などを携帯するとよい。

【評価方法】

三回のレポートによって評価する。

【テキスト】

その都度、配布する。

【参考文献】

その都度、指示する。

日本文学概論

担当教員 葛綿 正一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文学研究の方法を学び、日本文学の特質について理解する。

【授業の展開計画】

- 1、文学研究の方法
- 2、文学と風景
- 3、文学と内面
- 4、文学と告白
- 5、文学と病気
- 6、文学と子供
- 7、文学と女性
- 8・9・10、英語で日本文学について考える
- 11、文学と民俗学
- 12、文学と絵画
- 13、文学と映画
- 14、文学と漫画
- 15、まとめ

【履修上の注意事項】

電子辞書を持参するとよい。

【評価方法】

三回のレポートで評価する。

【テキスト】

そのつど指示する。

【参考文献】

日本文学特殊講義 I

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本文学特殊講義Ⅱ

担当教員 未定

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本文学特殊講義Ⅲ

担当教員 葛綿 正一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文学の鑑賞を深め、創作へと繋げていきます。小説の鑑賞と創作、詩の鑑賞と創作、俳句の鑑賞と創作、評論の鑑賞と創作、戯曲の鑑賞と創作を試みます。

【授業の展開計画】

- 1、講義の目標
- 2～6、小説の鑑賞と創作
- 7・8、詩の鑑賞と創作
- 9・10、俳句の鑑賞と創作
- 11・12、評論の鑑賞と創作
- 13・14、戯曲の鑑賞と創作
- 15、まとめ

【履修上の注意事項】

毎回、小文を提出すること。

【評価方法】

提出された小文および作品によって評価します。

【テキスト】

その都度配布します。

【参考文献】

その都度指示します。

日本文学を読む I

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は『宇治拾遺物語』の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる読解力を想定して講義する。

【授業の展開計画】

- | | | | |
|---|-----------------|----|--------------|
| 1 | ガイダンス | 9 | 『宇治拾遺物語』の講読⑥ |
| 2 | 説話とは何か | 10 | 『宇治拾遺物語』の講読⑦ |
| 3 | 『宇治拾遺物語』の類話について | 11 | 『宇治拾遺物語』の講読⑧ |
| 4 | 『宇治拾遺物語』の講読① | 12 | 『宇治拾遺物語』の講読⑨ |
| 5 | 『宇治拾遺物語』の講読② | 13 | 『宇治拾遺物語』の講読⑩ |
| 6 | 『宇治拾遺物語』の講読③ | 14 | 『宇治拾遺物語』の講読⑪ |
| 7 | 『宇治拾遺物語』の講読④ | 15 | 『宇治拾遺物語』の講読⑫ |
| 8 | 『宇治拾遺物語』の講読⑤ | 16 | テスト |

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②毎時間、A 4一枚の課題を提示するので、次時の授業開始時に提出すること。③指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。④追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得の必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。

【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷ 3＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『宇治拾遺物語』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。

【テキスト】

テキスト：中島悦次校注『宇治拾遺物語』（角川ソフィア文庫）940円

【参考文献】

日本文学を読むⅡ

担当教員 田場 裕規

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は『おくの細道』の講読を行い、語彙、文法、表現、歌枕等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあり、教科書にも採択される作品であるので、教壇において適切な指導に足る読解力の養成を目指す。また本文（芭蕉自筆本などの変体仮名）の読みに慣れることも目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（座席決め、講義の概要、評価方法、その他）
2	『おくの細道』の概説①
3	『おくの細道』の概説②
4	芭蕉自筆本の翻字、翻刻の演習①
5	芭蕉自筆本の翻字、翻刻の演習②
6	芭蕉自筆本の翻字、翻刻の演習③
7	『おくの細道』の講読①
8	『おくの細道』の講読②
9	『おくの細道』の講読③
10	『おくの細道』の講読④
11	『おくの細道』の講読⑤
12	『おくの細道』の講読⑥
13	『おくの細道』の講読⑦
14	『おくの細道』の講読⑧
15	『おくの細道』の講読⑨
16	テスト

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②講義のはじめに本文（変体仮名）の読みを行うので、事前に読みの練習等を行ってから講義に臨むこと。③指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。④古語辞典を必ず持参すること。⑤追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得に必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。

【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷3＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『おくの細道』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。

【テキスト】

『新版おくの細道』（角川ソフィア文庫）¥705

【参考文献】

日本文学を読むⅢ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、主として近現代作家のテクストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

【授業の展開計画】

- 1 ジェンダー論入門
「勢力 (power)」概念で読む向田邦子の「花の名前」「かわうそ」
- 2 樋口一葉「にごりえ」/ジェンダーと周縁性
- 3 与謝野晶子「みだれ髪」/ジェンダーと身体性の言説
- 4 田山花袋「蒲団」/ジェンダーと囲い込み
- 5 森鷗外「半日」/ジェンダーと〈母〉
- 6 長塚節「土」/ジェンダーと階級

【履修上の注意事項】

期末レポート以外に、発表、課題を2～3回課します。

【評価方法】

- ①試験 (orレポート) ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

【参考文献】

そのつど指示します。

日本文学を読むⅣ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、主として近現代作家のテクストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

【授業の展開計画】

(導入) ジェンダー論入門Ⅱ

- 7 田村俊子「生血」/ジェンダーと〈性〉
- 8 平塚らいてう「茅ヶ崎へ、茅ヶ崎へ」/女性同性愛というセクシュアリティ
- 9 夏目漱石「こゝろ」/男性同性愛と異性愛体制およびジェンダー
- 10 菊池寛「父帰る」/ジェンダーと家父長制
- 11 有島武郎「或る女」/「ジェンダーとセクシュアリティ
- 12 谷崎潤一郎「痴人の愛」/ジェンダーとメディア

【履修上の注意事項】

期末レポート以外に、課題を3～4回課します。

【評価方法】

①試験 (orレポート) ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

【参考文献】

そのつど指示します。

比較文化論

担当教員 兼本 敏

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、各自が持つ異文化に対する好奇心や憧れを自文化を比較することで自分の文化への理解を深め、

1. 文化を比較するとは何であるのか
2. 文化をどのように比較するか
3. どのように役に立てるか

以上の3点を明確にし、実感することである。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（講義の目的と諸注意）
2. 文化とは？ 比較と対照
3. 比較・対照の事例紹介（先輩方の発表事例を中心に）
4. 古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する
5. 古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する
6. 文化の諸相（1） 地理・気候と交通
7. 文化の諸相（2） 地理・気候と交通
8. 文化の諸相（1） 世界の宗教と自然
9. 文化の諸相（2） 世界の宗教と自然
10. 日本と西洋の接触（1）
11. 日本と西洋の接触（2）
12. レポートの書き方指導
13. 比較・対照のテーマ設定
14. 比較・対照のテーマ設定
15. 比較・対照のテーマ設定

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席をしないこと）
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えない。

【評価方法】

小テスト2回（各10%）
レポート（80%）

【テキスト】

特に指定しない。
講義ではPPTで講義の要点を提示する。

【参考文献】

高校までに習得した地理（地形・気候）や歴史（文化・宗教）を確認しておくこと。

文化情報学基礎演習

担当教員 伊佐 常利

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は3年次から始まる人文情報コースでの、文化情報の蓄積と発信に関する研究についての理解をさらに深めることを目指します。具体的には、卒業研究として、ソフトウェア(アニメーション)制作を行うための基礎知識の習得を目指します。※後期に開講される「地域データベース論」も続けて受講することが望ましい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	デジタル紙芝居作成の計画
2	Flashの基本操作1 画面構成、図形描画、2つのオブジェクトモデル、文字
3	Flashの基本操作2 パスとペンツール、レイヤー、フレームの操作
4	Flashの基本操作3 フレームアニメーションと練習問題、シーンの連結
5	Flashの基本操作4 モーショントゥイーン、シンボルとインスタンス
6	Flashの基本操作5 モーショントゥイーン(移動、色変更、形の変化、回転)の練習
7	Flashの基本操作6 モーションガイド、マスク、音声の追加
8	Flashの基本操作7 シンボル内アニメーション
9	様々なイラスト作成方法1 Photoshopを利用したイラスト作成
10	様々なイラスト作成方法2 Photoshopを利用したイラスト作成
11	様々なイラスト作成方法3 Illustratorを利用したイラスト作成
12	様々なイラスト作成方法4 Illustratorを利用したイラスト作成
13	デジタル紙芝居の制作
14	デジタル紙芝居の制作
15	紙芝居の公開
16	

【履修上の注意事項】

- ・人文情報コースを選択し、文化情報ソフトウェアの制作を行う人は必ず受講して下さい。
- ・パソコンの基本操作ができることを前提とする授業のため、「人文情報基礎」「データベース論」「マルチメディア論」(同時受講可)を履修していることが望ましい。

【評価方法】

- 1) 出席回数と課題提出状況によって総合的に評価します。
- 2) 全15回の授業の内、2/3以上欠席した場合、または課題未提出者には単位を与えません。

【テキスト】

- 1) プリントを配布します。テキストは使用しません。
- 2) データを保存するメディアとして、USBフラッシュメモリ(2GB以上)を各自で準備してください。

【参考文献】

文化情報処理入門

担当教員 山口真也（前半10回）、芳山紀子（後半5回）

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本文化学科の専門課程で修得する日本文化、琉球文化、多文化間コミュニケーションに関する知識をより広く、多様な手法で表現するために、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを目指すとともに、文化研究の基礎となる、インターネットを活用した情報収集・文献収集のテクニックを身につけることで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。

【授業の展開計画】

<到達目標>①Word文書処理技能検定2級レベルの技能を修得し、大学生活での様々なニーズに応じて、レポート、案内文書、レジュメなど、適切な文書を作成することができる。②表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を理解し、2年生から本格的に開始するゼミ等での調査、研究発表に役立てる準備ができる。③インターネットや図書館を使った文献検索法を身につけ、後期から始まる「リテラシー入門Ⅱ」での研究発表に活かすことができる。1回目～11回目は山口担当、12回目～16回目は芳山担当。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・PCの基本構造・基本操作 日本語入力・ファイルの保存と削除・フォルダ管理
2	Wordの基本操作① ホームタブ(フォント・段落)の操作
3	Wordの基本操作② ホームタブ(スタイルの定義・編集・クリップボード)の操作
4	文献検索ガイダンス① 理論編(図書館・DBを使った文献収集方法)
5	文献検索ガイダンス② 実践編(図書館での文献検索演習)
6	Wordの基本操作③ 挿入タブ(表・図)の操作(1) 基本操作編
7	Wordの基本操作④ 挿入タブ(表・図)の操作(2) 応用編
8	Wordの基本操作⑤ 挿入タブ(図形・スクリーンショット・Word Art)の操作
9	Wordの基本操作⑥ ページレイアウト・参考資料(脚注)・校閲
10	プレゼンテーションソフトの基本操作 写真、グラフの挿入・アニメーション・効果音設定
11	実力判定試験(キータッチ+Word)
12	Excelの基本操作(画面構成/データの種類と入力の規則他)
13	Excelの表計算機能の活用①(基礎的な関数/相対参照と絶対参照/演習問題)
14	Excelのグラフ機能とデータベース機能①(単独グラフ/複合グラフ/高度なグラフ作成/並べ替え)
15	Excelのデータベース機能②(フィルター/フォーム/複雑な条件抽出/演習問題)
16	Excelの表計算機能の活用②(条件判断/端数処理/順位付け) 実力判定ミニ試験(Excel)

【履修上の注意事項】

- 1) 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。
- 2) 日本語入力の練習は各自行うこと。速度が上がらない場合は相談に来ること。

【評価方法】

定期テスト・・・60点

レポート・・・40点（単元ごとに課す課題の提出状況、文献検索ガイダンスでの取り組みを評価）

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

文化情報処理論

担当教員 芳山 紀子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

【授業のねらい】

パソコンの初歩的知識・技術を習得している者。1年次の人文情報基礎において、体系的に学習を受けた者および、同等の知識・技術を持っている者を対象とし、Excel・Wordの応用操作を通し、身の回りに存在するデータを効率よく活用する技術を習得する。日本商工会議所の「日商PC検定試験（文書作成）2級」（旧日商日本語文書処理技能2級）レベルの習得を第一段階とする。本授業をとおり、パソコンの操作技術は勿論のこと、今後実社会で必要とされるネットワークやハードウェアなど、パソコンの基礎知識及び漢字力・読解力・企画力・数学力など、総合力を育成し卒業後の即戦力への足がかりとする。

【授業の展開計画】

本授業をとおり、パソコンの操作技術は勿論のこと、今後実社会で必要とされるネットワークやハードウェアなど、パソコンの基礎知識及び漢字力・読解力・企画力・数学力など、総合力を育成し卒業後の即戦力への足がかりとする。

- 1 ビジネス文書の基本構成と活用 基本的ビジネス文書の作成 頭語と結語 時候の挨拶など
- 2 文書の編集 移動・コピー・入れ替え ビジネス文書作成 ルビと記号入力 その他
- 3 図形描画の概念と活用 練習問題 テキストボックスの概念と活用（1）
- 4 図形描画で作品を作る（機関車トーマス）
- 5 図形描画練習問題1 演習問題 図形描画演習問題2 作成手順の説明
- 6 罫線活用と図形活用の表の違いと特徴 罫線の学習1-1 段落罫線 文字列を表に変換
- 7 罫線活用と図形活用の表の違いと特徴 罫線の学習1-2 段落罫線 表の編集
- 8 異なるアプリケーションの連携 データ作成 OLE機能の確認
- 9 日本語能力確認 慣用句・漢字の読み書き・敬語及び謙譲語その他
- 10 パソコン基礎概論講義1（一般知識 ハードウェア概要）
- 11 パソコン基礎概論講義2（ソフトウェア ネットワーク 情報セキュリティ）
- 12 実力養成演習問題1
- 13 実力養成演習問題2
- 14 実力養成演習問題2
- 15 期末試験
- 16 総括とまとめ

【履修上の注意事項】

各学生の情報技術、知識、希望を考慮し、クラス分けを行う。

本授業は、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。（上記2科目の単位を取得していない学生は受講できない）

【評価方法】

演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数 が全授業回数の三分の二に満たない場合は単位を与えない。）

【テキスト】

すべてオリジナルテキスト（芳山紀子編集）

【参考文献】

FOM出版：日商PC検定試験完全マスター2級（文書作成）

文化テキスト論Ⅰ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

文化テキスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。前期の文化テキスト論Ⅰでは、主としてジェンダー理論の基礎を学び、文化における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、ポスト・コロニアル等の視点から考察する予定です。

【授業の展開計画】

- 1 ジェンダー理論入門
- 2 「男」「女」とは何か
- 3 歴史的な議論（1）
- 4 歴史的な議論（2）
- 5 性別の起源
- 6 性差・ステレオタイプ・差別
- 7 性役割と社会的規範
- 8 性のグラデーション
- 9 映画の表象分析（1）
- 10 映画の表象分析（2）
- 11 映画の表象分析（3）
- 12 多様な文化現象を考える

【履修上の注意事項】

レポート、提出物を4～5回課します。

【評価方法】

- ①試験（orレポート） ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

参考図書・文献は、そのつど指示します。

文化テキスト論Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

文化テキスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。文化テキスト論Ⅱでは、実際の文学テキストや映像（映画、写真、ポスター、絵画 etc.）における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、クィア・スタディーズ、ポスト・コロニアル等の視点から分析、考察する予定です。

【授業の展開計画】

- 1 多様な世界の中で生きるということ
- 2 クィア理論の射程
- 3 映画「X-men」の表象分析
- 4 男同士の絆／ホモソーシャルな欲望（E・K・セジウィック）
- 5 映画「BROTHER」の表象分析
- 6 ハリウッド映画の「ミソジニー」（女性嫌悪）
- 7 「強制異性愛社会」と「ホモフォビア」（同性愛嫌悪）
- 8 微視的な政治、権力、監視etc.
- 9 ジェンダー・トラブル（ジュディス・バトラー）他
- 10 「沖縄」／ポスト・コロニアル／ジェンダー／セクシュアリティ
- 11 文化表象の分析（1）
- 12 文化表象の分析（2）
- 13 文化表象の分析（3）

【履修上の注意事項】

レポート・課題を4～5回課します。

【評価方法】

①試験（orレポート） ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

プリントを使用。

【参考文献】

参考図書・文献は、そのつど指示します。

プロジェクト演習

担当教員 佐渡山 美智子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ポップカルチャー論

担当教員 久万田 晋 (6回)、土屋誠一 (5回)、大胡太郎 (5回)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マルチメディア論

担当教員 佐久本 邦華

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、マルチメディアを活用した表現・処理に関する知識・技術を習得する科目である。作品制作を通し、企画力や構成力、表現力など、情報を視覚的、かつ効果的に活用することができる基礎的な知識と技術の習得を目指します。実際には、PhotoshopやIllustratorなどの画像処理ソフト、イラスト描画ソフトによる静止画、及び動画の設計・制作を通し、視覚性・視認性の高いコンピュータグラフィックスの作品を制作します。さらにホームページ作成ソフトを用いて、静止画や動画作品を掲載したwebページを制作し、webサイトヘデータをアップロードすることを最終目標とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	マルチメディアとは／ Photoshop1ー各種パレット／解像度の変更／色調補正／jpeg形式での保存等
2	Photoshop2ー修正ブラシツール／スタンプツール／ヒストリーブラシ／調整レイヤー
3	Photoshop3ー明るさ・コントラスト／カラーバランス／各種選択ツール／画像合成
4	Photoshop4ー色相・彩度／レイヤースタイル／フィルター効果／レイヤーマスク
5	Photoshop5ーGIFアニメーション作成
6	Photoshop6ー壁紙やアイコンなどのweb用素材制作
7	Illustrator1ー図形描画、ペンツールによるトレース／彩色
8	Illustrator2ーイラスト作成／複製・拡大・縮小・回転／メッシュツール／グラデーションツール
9	Illustrator3ーロゴマークトレース／地図作成
10	ホームページ作成1ーイメージと配色／非圧縮と可逆・不可逆圧縮／ファイルの種類／サイトの作成
11	ホームページ作成2ー画像の挿入／段組みレイアウト／gif・flashアニメーションの挿入
12	ホームページ作成3ー映像の挿入
13	最終課題制作 1
14	最終課題制作 2
15	課題発表1
16	課題発表2

【履修上の注意事項】

- (1) おしゃべり・課題未提出者は、不可とする。
- (2) 期末試験はなく、学期を通してオリジナルの作品を複数製作・公開し、それが評価の対象となる。
- (3) 人文情報コースを選択し、ソフトウェア・データベース製作を卒業研究のテーマとする場合は必ず履修すること。
- (4) 本科目は新カリキュラムでは他の科目に統合されるため、再来年度以降は開講されない。

【評価方法】

出席、および課題を採点し、評価を行う。

【テキスト】

先生が作成したテキストを使います。

【参考文献】

リテラシー入門 I

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション・クラス開き
- 第2回 自己紹介
- 第3回 大学入門①
- 第4回 図書館オリエンテーション
- 第5回 大学入門②
- 第6回 要約文の書き方①
- 第7回 要約文の書き方②
- 第8回 意見文の書き方①
- 第9回 意見文の書き方②
- 第10回 意見文の書き方③
- 第11回 こころの健康ガイダンス
- 第12回 レポートの書き方
- 第13回 各ゼミごとの学習
- 第14回 キャリアガイダンス
- 第15回 まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席は厳禁)
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】

授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

リテラシー入門 I

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・クラス開き
2	自己紹介
3	大学入門①
4	図書館オリエンテーション
5	大学入門②
6	要約文の書き方①
7	要約文の書き方②
8	意見文の書き方①
9	意見文の書き方②
10	意見文の書き方③
11	こころの健康ガイダンス
12	レポートの書き方
13	各ゼミごとの学習
14	キャリアガイダンス
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定
16	予備日

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席は厳禁)
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】

授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

リテラシー入門 I

担当教員 大野 隆之

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

リテラシー入門 I

担当教員 兼本 敏

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション・クラス開き
- 第2回 自己紹介
- 第3回 大学入門①
- 第4回 図書館オリエンテーション
- 第5回 大学入門②
- 第6回 要約文の書き方①
- 第7回 要約文の書き方②
- 第8回 意見文の書き方①
- 第9回 意見文の書き方②
- 第10回 意見文の書き方③
- 第11回 こころの健康ガイダンス
- 第12回 レポートの書き方
- 第13回 各ゼミごとの学習
- 第14回 キャリアガイダンス
- 第15回 まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席は厳禁)
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】

授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

リテラシー入門 I

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とします。図書館オリエンテーションやワークショップなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション・クラス開き
- 第2回 自己紹介
- 第3回 大学入門①
- 第4回 図書館オリエンテーション
- 第5回 大学入門②
- 第6回 要約文の書き方①
- 第7回 要約文の書き方②
- 第8回 意見文の書き方①
- 第9回 意見文の書き方②
- 第10回 意見文の書き方③
- 第11回 こころの健康ガイダンス
- 第12回 レポートの書き方
- 第13回 各ゼミごとの学習
- 第14回 キャリアガイダンス
- 第15回 まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。(無断欠席は厳禁)
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】

授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 兼本 敏

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「リテラシー入門Ⅰ」での学習内容をさらに発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」を更に深く習得することを目的とします。環境問題やキャリアをテーマとする講座などの合同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 クラス開き・受講者の確認・教員紹介
- 第2回 研究発表の方法・テーマ、グループの決定
- 第3回 レジユメの書き方・まとめ方
- 第4回 文章の引用方法、著作権
- 第5回 研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定
- 第6回 研究発表の見本（模擬発表）
- 第7回 環境意識を育てるためのガイダンス
- 第8回 グループ研究発表①
- 第9回 グループ研究発表②
- 第10回 グループ研究発表③
- 第11回 グループ研究発表④
- 第12回 グループ研究発表⑤
- 第13回 グループ研究発表⑥
- 第14回 キャリアガイダンス
- 第15回 まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席をしないこと）
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えない。

【評価方法】

授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】

第1回目のオリエンテーションで説明します。

【参考文献】

第1回目のオリエンテーションで説明します。

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 未定

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 大野 隆之

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 田場 裕規

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「基礎演習Ⅰ」での学習内容をさらに発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」をさらに深く習得することを目的とします。環境問題やキャリアをテーマとする講座などの合同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 クラス開き・受講者の確認・教員紹介
- 第2回 研究発表の方法・テーマ、グループの決定
- 第3回 レジユメの書き方・まとめ方
- 第4回 文章の引用方法、著作権
- 第5回 研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定
- 第6回 研究発表の見本（模擬発表）
- 第7回 環境意識を育てるためのガイダンス
- 第8回 グループ研究発表①
- 第9回 グループ研究発表②
- 第10回 グループ研究発表③
- 第11回 グループ研究発表④
- 第12回 グループ研究発表⑤
- 第13回 グループ研究発表⑥
- 第14回 キャリアガイダンス
- 第15回 まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁）
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】

授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

リテラシー入門Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の「基礎演習Ⅰ」での学習内容をさらに発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」をさらに深く習得することを目的とします。環境問題やキャリアをテーマとする講座などの合同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力を習得することを目指します。

【授業の展開計画】

- 第1回 クラス開き・受講者の確認・教員紹介
- 第2回 研究発表の方法・テーマ、グループの決定
- 第3回 レジユメの書き方・まとめ方
- 第4回 文章の引用方法、著作権
- 第5回 研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定
- 第6回 研究発表の見本（模擬発表）
- 第7回 環境意識を育てるためのガイダンス
- 第8回 グループ研究発表①
- 第9回 グループ研究発表②
- 第10回 グループ研究発表③
- 第11回 グループ研究発表④
- 第12回 グループ研究発表⑤
- 第13回 グループ研究発表⑥
- 第14回 キャリアガイダンス
- 第15回 まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定

【履修上の注意事項】

- 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁）
- 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。

【評価方法】

授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。

【テキスト】

1回目のオリエンテーションにて説明します。

【参考文献】

琉球芸能史

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本の古典芸能のなかで、沖縄の芸能の存在は重要な位置にある。それは、国が指定する重要無形文化財の指定数からもわかる。

これは、沖縄が琉球という王国を形成していた時代に発達した芸能が、現在まで受け継がれていることによる。

本講義では、現代に伝わる沖縄の芸能の中から古典芸能を中心に講義を進める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義説明
2	古典芸能の略史
3	三線音楽と琉歌①
4	三線音楽と琉歌②
5	古典舞踊概説
6	老人踊り
7	若衆踊り
8	女踊り①
9	女踊り②
10	二才踊り
11	雑踊り①
12	雑踊り②
13	沖縄芝居
14	民俗芸能との関係性①
15	民俗芸能との関係性②
16	試験

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。

芸能鑑賞のため、視聴覚教材を使用する講義がある。

レポート提出を2回程度予定している。

【評価方法】

出席・レポート・試験

【テキスト】

テキストはない。プリントを随時配布する。

【参考文献】

『沖縄芸能史話』 矢野輝雄著 榕樹社

琉球語会話 I

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言の一つである沖縄語首里方言について、テキストを用いながら学んでいく。会話練習や練習問題を解くことによって首里方言に慣れてもらい、沖縄語で表現することへの回路を開いていきたい。現在、世界中の多様な言語が消滅の危機にあるが、この伝統的な沖縄語（ウチナーグチ）も、消滅危機言語と言えるのかもしれない。本講義では、沖縄語で実際に会話することによって、沖縄語の实质にふれていく。また、沖縄語中南部方言に属する首里方言のみならず、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語、奄美語などの諸語についても折にふれて解説する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・琉球語諸方言の区画
2	自己紹介さびら
3	沖縄語の発音（1）―三母音化―
4	沖縄語の発音（2）―口蓋化―
5	沖縄語の文法（1）―「ガ」と「ヌ」―
6	沖縄語の文法（2）―動詞①―
7	沖縄語の文法（3）―動詞②―
8	沖縄語の文法（4）―形容詞―
9	中間試験
10	沖縄語の文法（5）―係り結び―
11	沖縄語の発音（3）―声門閉鎖音―
12	沖縄語の文法（6）―丁寧語―
13	沖縄語の文法（7）―テ形―
14	沖縄語の文法（8）―過去形・継続形―
15	予備日
16	期末試験

【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがある。
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。

【評価方法】

中間・期末試験および出席点によって評価する。

【テキスト】

西岡敏・仲原穰 [著]、伊狩典子・中島由美 [協力] 2006[2000] 『沖縄語の入門（CD付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）

【参考文献】

国立国語研究所 [編] 1963 『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局）、井上史雄・吉岡泰夫 [監修] 『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。

琉球語会話Ⅱ

担当教員 西岡 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球語会話Ⅰから継続して、琉球語諸方言のうちの沖縄語首里方言を学んでいく。沖縄語の中身を体得することで、琉球文化を継承する意義についても深めていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	普通体と丁寧体
2	複文（順接文・逆接文・条件文）
3	規則動詞と不規則動詞
4	第1過去形と第2過去形
5	親族名称
6	疑問の係り結び
7	受身文・使役文
8	敬語
9	中間試験
10	応用①：琉球料理
11	応用②：マチグラー
12	応用③：昔ばなし
13	琉歌・民謡
14	歌劇・組踊
15	予備日
16	期末試験

【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがある。
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。

【評価方法】

中間・期末試験および出席点によって評価する。

【テキスト】

西岡敏・仲原穰〔著〕、伊狩典子・中島由美〔協力〕 2006〔2000〕 『沖縄語の入門（CD付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）

【参考文献】

国立国語研究所〔編〕1963 『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局）、井上史雄・吉岡泰夫〔監修〕 『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。

琉球語学概論

担当教員 一仲原 穰

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

琉球語学入門

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球諸語はいわゆる危機言語に分類されています。すなわち、今世紀中には滅びて無くなってしまいかもしいないと危惧されています。その一方で、琉球諸語を何とか再生・再活性化させようという動きも盛んになってきています。世代間の断絶を克服し、老年世代の「しまくとぅば」を継承していくための基礎的な知識を修得することを本講では目指します。沖縄語を中心に話を進めますが、宮古・八重山・奄美の言葉についても随時ふれていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、講義内容、評価方法の説明
2	琉球列島の島々～島の名前言えるかな？～
3	琉球諸語の区画とユネスコの危機言語
4	独特の発音①～豚の「つわー」の発音できるかな？～
5	独特の発音②～中舌母音の発音できるかな？～
6	指小辞「ぐわー」って何？
7	ウチナーヤマトゥグチからみる琉球語
8	中間試験
9	沖縄語概説
10	国頭語概説
11	奄美語概説
12	宮古語概説
13	八重山語・与那国語概説
14	琉球語で表現してみよう①
15	琉球語で表現してみよう②
16	期末試験

【履修上の注意事項】

1. 3分の1を超える欠席者は、原則として単位を認めません。
2. 試験への持ち込みはすべて不可です。

【評価方法】

試験・出席点

【テキスト】

テキストは使用せず、プリント・資料を配布します。

【参考文献】

『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（井上史雄・吉岡泰夫〔監修〕、ゆまに書房）。その他、必要に応じて指示します。

琉球文化基礎演習

担当教員 仲原 伸子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択必修科目

【授業のねらい】

琉球文化とは、日本や世界と交流しながら独自に発達してきた琉球の文化（言語・文学・芸能・音楽・信仰・建築・工芸等）のことをいう。

本演習では、学生それぞれが関心のある琉球文化をテーマとして、様々な資料を活用しながら考察し、その内容を発表する形式をとる。発表者はレジュメを用意し、口頭発表する。受講者はコメント用紙を記入し提出する。発表後はレジュメを修正し、再度提出してもらう。

本演習は、琉球文化に対する関心を高めること、基礎知識を深めること、視野を広げることをねらいとする。

【授業の展開計画】

第1回 授業内容の説明

1. 琉球文化とは何か
2. 発表テーマについて
3. 発表順序について
4. レジュメ作成について
5. コメント用紙の記入について

第2回～第15回

1. 発表者による発表および質疑応答
2. 発表に対するコメント

第16回 試験

【履修上の注意事項】

1. 発表者の無断欠席は、原則として単位を認めない。
2. 3分の1以上の欠席者には、原則として単位を認めない。

【評価方法】

出席状況、授業態度、発表内容、試験などを総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献】

『沖縄大百科事典』（上中下巻、沖縄タイムス社編）、
その他、授業で紹介する。

琉球文化論

担当教員 西岡 敏

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

奄美・沖縄・宮古・八重山地域における信仰や言語、風俗、習慣などについて、テキストに沿って説明していく予定です。テキストは文学のものですが、その内容に即して、芸能や芸術、学問、思想など、できるだけ幅広い分野に関して扱っていきます。また、必要に応じてCD・DVD・VHSなどの視聴覚教材を使用します。まず、琉球文化の概要を知ってもらい、最終的には2年次以降の学習に役立てていける授業を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価方法の説明
2	身近な方言から琉球文化を考える
3	沖縄の歌謡Ⅰ（ミセゼル・オタカベ）
4	沖縄の歌謡Ⅱ（おもろさうし）
5	奄美の歌謡
6	宮古の歌謡
7	八重山の歌謡
8	琉歌とその背景
9	琉歌の作品鑑賞
10	琉球の劇文学Ⅰ（組踊）
11	琉球の劇文学Ⅱ（沖縄芝居）
12	日記・評論・随筆
13	琉球和文学
14	琉球漢詩文
15	予備日
16	試験

【履修上の注意事項】

1. 3分の1を超える欠席者は、原則として単位を認めません。
2. 試験への持ち込みはすべて不可です。

【評価方法】

試験・小テスト・出席点などで評価します。

【テキスト】

『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版 2008 増補・改訂版）

【参考文献】

必要に応じて配布します。

琉球文学概論

担当教員 一仲原 伸子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文学作品は叙事文学、叙情文学、劇文学の三つのジャンルに分類できる。「琉球文学」とは奄美・沖縄・宮古・八重山で展開されてきた文学のことで、それぞれの地域に様々な歌謡・作品がある。本講義では、まだ確立されていない「琉球文学」のジャンル分類について整理をし、それぞれのジャンルから歌謡・作品を紹介し、その特徴を考察する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	琉球文学の枠組（「琉球文学」の呼称、「琉球文学」の定義、「琉球文学」のジャンル分類）
2	歌謡（歌謡概説、祈りの文学、オモロ、奄美・宮古・八重山の歌謡）
3	〃
4	琉歌（琉歌概説、琉歌）
5	〃
6	〃
7	琉球説話文学（琉球説話文学概説、神話、伝説、方言説話）
8	〃
9	琉球劇文学（劇文学概説、組踊、沖縄芝居）
10	〃
11	〃
12	日記・評論（日記・評論概説、評論）
13	琉球和文学（琉球和文学概説、和歌、擬古文物語、随筆）
14	〃
15	琉球漢文学（琉球漢文学概説、漢詩、漢文）
16	試験

【履修上の注意事項】

3分の1を超える欠席者は、原則として単位を認めない。

【評価方法】

試験の点数と出席点・授業態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

『新編 沖縄の文学』（沖縄県教育文化資料センター・沖縄時事出版・2003年刊）
その他、レジュメや資料を配付する。

【参考文献】

『岩波講座 日本文学史 第15巻 琉球文学、沖縄の文学』（岩波書店、1996年）
『南島文学論』（外間守善著、角川書店、1995年）
『南島歌謡論』（弧琉球叢書8、玉城政美著、砂子屋書房、2010年） 他、参考文献一覧を配布する。

琉球文学特殊講義 I

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球文学のなかで戯曲として位置づけられている「組踊」は、玉城朝薫によって創作された。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。

本講義では、組踊の表現方法をさまざまな視点から考察することを目的とする。

【授業の展開計画】

- 1、組踊概説
 - ①誕生とその歴史
 - ②文学的表現（台詞を中心に）
 - ③音楽的・舞踊的表現
- 2、作品研究
 - 「執心鐘入」 台本講読
演技と音楽
 - 「二童敵討」 台本講読
演技と音楽
 - 「花売の縁」 台本講読
演技と音楽

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。
組踊の鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。
レポート提出を2回程度予定している。

【評価方法】

出席・レポート・期末試験

【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社

琉球文学特殊講義Ⅱ

担当教員 宮城 茂雄

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球文学のなかで戯曲として位置づけられている「組踊」は、玉城朝薫によって創作された。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。

本講義では、組踊の表現方法をさまざまな視点から考察することを目的とする。

【授業の展開計画】

- 1, 組踊概説
 - ①誕生とその歴史
 - ②文学的・音楽的・舞踊的表現
- 2, 作品研究
 - 「万歳敵討」 台本講読
演技と音楽
 - 「雪払い」 台本講読
演技と音楽
 - 「銘苺子」 台本講読
演技と音楽

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として単位を認めない。
組踊の鑑賞のため、ビデオなどの視聴覚教材を使用する講義が数回ある。
レポート提出を2回程度予定している。

【評価方法】

出席・レポート・期末試験

【テキスト】

テキストはなし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

矢野輝雄著『組踊への招待』琉球新報社

琉球文学を読む I

担当教員 仲原 伸子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。1531年に第1巻、1613年に第2巻、1623年に第3巻以降の全22巻が成立した（総数1554首）。

本講義では、実際にオモロに関する資料を活用しながら、資料の内容を理解しその扱い方を学ぶ。最終的に自分でオモロを調べることができることを目標とする。1コマ1・2首ずつ採り上げ、重複、校異、歌形、反復句、語意、語釈、解釈、先行研究などについて調べ読解していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	琉球文学の中の『おもろさうし』
2	『おもろさうし』概説（成立・内容・主題）
3	『おもろさうし』概説（周辺歌謡・文学史的な位置づけ）
4	『おもろさうし』概説（諸本）
5	王府おもろ
6	神女おもろ(1)
7	神女おもろ(2)
8	船ゑとのおもろ(1)
9	船ゑとのおもろ(2)
10	ゑさおもろ
11	名人おもろ
12	こねりおもろ
13	地方おもろ(1)
14	地方おもろ(2)
15	公事おもろ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート点と出席状況・授業参加姿勢とを総合的に評価する。

【テキスト】

『おもろさうし』上・下（外間守善・岩波文庫・2000年刊）

【参考文献】

『琉球の歴史と文化－『おもろさうし』の世界－』（波照間永吉編・角川書店・2007年刊）

『おもろと琉歌の世界－交響する琉球文学－』（嘉手苺千鶴子・森話社・2003年刊）

その他、参考文献一覧を授業で配布する。

琉球文学を読むⅡ

担当教員 仲原 伸子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。1531年に第1巻、1613年に第2巻、1623年に第3巻以降の全22巻が成立した（総数1554首）。

本講義では、実際にオモロに関する資料を活用しながら、資料の内容を理解しその扱い方を学ぶ。最終的に自分でオモロを調べることができることを目標とする。1コマ1・2首ずつ採り上げ、重複、校異、歌形、反復句、語意、語釈、解釈、先行研究などについて調べ読解していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	琉球文学の中の『おもろさうし』
2	『おもろさうし』概説（成立・内容・主題）
3	『おもろさうし』概説（周辺歌謡・文学史的な位置づけ）
4	『おもろさうし』概説（諸本）
5	王府おもろ
6	神女おもろ(1)
7	神女おもろ(2)
8	船ゑとのおもろ(1)
9	船ゑとのおもろ(2)
10	ゑさおもろ
11	名人おもろ
12	こねりおもろ
13	地方おもろ(1)
14	地方おもろ(2)
15	公事おもろ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート点と出席状況・授業参加姿勢とを総合的に評価する。

【テキスト】

『おもろさうし』上・下（外間守善・岩波文庫・2000年刊）

【参考文献】

『琉球の歴史と文化－『おもろさうし』の世界－』（波照間永吉編・角川書店・2007年刊）

『おもろと琉歌の世界－交響する琉球文学－』（嘉手苺千鶴子・森話社・2003年刊）

その他、参考文献一覧を授業で配布する。